



「モノ認識」 x 「モバイル」 x 「自動化」 = AsReader

IoT x AsReader =  Digital Transformation

2027 年 8 月期

事業計画及び成長性に関する事項

株式会社アスタリスク

証券コード： 6522



Asterisk Inc.

2026.10.15

1．会社概要 / 事業セグメント概要 / 市場環境	P3
(1) 会社概要	P4
(2) 事業セグメント概要	P9
(3) 市場環境	P23
2．2026 年 8 月期 業績ハイライト	P27
(1) 2026 年 8 月期 業績ハイライト	P28
(2) トピックス	P32
3．事業計画及び成長可能性に関する事項	P47
(1) 各事業別取り組み事項の目標に対する進捗	P48
(2) 2027 年 8 月期事業計画	P54
4．Appendix	P61

1. 会社概要 / 事業セグメント概要 / 市場環境



(1) 会社概要

会社概要

会社名	株式会社アスタリスク
株式市場	東証グロース (証券コード：6522)
代表者	代表取締役 執行役員 社長 鈴木 規之
設立	2006年9月1日
資本金	2,176,640千円 (2026年 8月31日現在)
本社	〒532-0013 大阪市淀川区木川西2丁目2-1 AsTech Osaka Building
東京事務所	〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目35-7 水天宮HSビル2F
URL	https://www.asx.co.jp/
事業内容	■AsReader事業（当社製品AsReaderの企画、開発、販売） 画像認識、バーコード、RFID、センサーなどの「モノ認識」技術を用いたAsReader・iOSやAndroidを中心としたモバイル端末と連携するAsReader・上記を用いたパッケージアプリケーション・その他、業務用製品の受託開発 ■システムインテグレーション事業（業務関係のSI事業） 画像認識、バーコード、RFID、センサーなどの「モノ認識」技術を用いた受託開発事業・iOSを中心としたモバイルアプリの受託開発事業・「モノ認識」技術を用いた業務コンサルタント・モバイル端末を用いた業務コンサルタント ■賃貸事業

経営理念

ITを通じて、三方笑顔を創造し、人類・社会の進歩発展に貢献します

1. 自己の良心をもって、信頼と安心を築き、三方笑顔を創造します
2. 早さを追求し、スピードあふれる行動をもって、三方笑顔を創造します
3. 新しいIT技術、斬新なサービスをもって、三方笑顔を創造します

当社の取り組みの姿勢

人に代わる自動化に貢献して、人類社会の進歩発展に貢献する

強みは「モノ認識」技術
そして、「モバイル」
キーワードは「自動化」

創業と「AsReader」の誕生 (2006 年～2012 年)

当初は受託開発からスタートし、現場の課題から自社製品を生み出す

- ・ **2006 年 09 月**：大阪市淀川区にて株式会社アスタリスクを設立。システムインテグレーション事業を開始
- ・ **2011 年～**：スマートフォンを業務利用する流れをいち早く捉え、iPhone/iPod touch に装着するジャケット型バーコードリーダー「AsReader」の開発に着手
- ・ **2012 年 12 月**：初代「AsReader」を発売。従来の専用ハンディターミナルに代わる、低コストかつ高機能なソリューションとして注目を集める

事業拡大と RFID 市場への参入 (2013 年～2020 年)

「モノの管理」をより効率化するため、バーコードから RFID (無線タグ) へと技術領域を広げる

- ・ **2013 年**：東京都港区に東京事業所を開設。全国的なサポート体制を構築
- ・ **2015 年**：米国 (カリフォルニア州) に現地法人を設立し、海外展開を開始
- ・ **2016 年**：RFID リーダーライターの製品ラインナップを拡充。アパレル業界や物流業界での在庫管理 DX を強力に推進
- ・ **2019 年**：画像認識 (AI) を活用したレジシステムや、顔認証による入退室管理などの新規ソリューションを発表

上場と次世代技術への投資 (2021 年～現在)

- ・ **RFID・AI・画像認識技術を融合し、次世代リテールプラットフォームの実現を目指す成長フェーズ**
- ・ **2021 年 09 月**：欧州 (オランダ) に現地法人を設立。欧州市場でのシェア拡大を図る
- ・ **2021 年 09 月**：東京証券取引所マザーズ (現グロース市場) へ上場
- ・ **2022 年～2023 年**：赤外線やカメラによる「画像認識 (AI)」と「RFID」を融合させたハイブリッドな認識技術の展開
セルフレジ関連の特許網を強化し、大手小売チェーン等への導入を加速
- ・ **2024 年～2025 年**：物流問題を見据えた「省人化・自動化ソリューション」へ注力
- ・ **2026 年～**：RFID、AI、顔認証、人追跡、POS・決済を統合した次世代リテールプラットフォームの構築を本格化
スーパーマーケット向け「全商品 RFID 化ソリューション」の展開を開始し、商品・棚・カート・レジ・物流を一体化する RFID 基盤を構築
独自のタグ貼付技術やクラウドによる商品情報管理を開発し、食品や金属包装商品への RFID 導入を推進
米国で RFID 関連特許を取得し、「AsReader RFID Reading TUB」の北米展開を本格化
RFID 一括会計とスーパーなどのリテール関連店舗の防犯への活用を推進
商品認識、決済、顧客認証、在庫管理、棚卸し及び防犯を一台に集約する「RFID スマートカート」を開発し、2027 年中の実用化を目指す
大手企業との協業・エコシステムを通じ、売り切り型から継続収益型への転換と国内外での事業拡大を推進

1. (1) トピックス (FY26) Board Member



代表取締役 執行役員 社長
鈴木 規之

技術的優位性とグローバル競争力の源泉

大阪大学大学院で数学（位相幾何学）を専攻した背景を持ち、論理的思考を「モノ認識」のアルゴリズムに昇華させる異色の発明家経営者。東レグループでの実務経験から製造・物流現場の非効率を痛感し、「AsReader」を開発。数学的アプローチによる独創的な製品開発は、模倣困難な高い参入障壁を築く。また、自ら海外3子会社のCEOを兼任し、「ルーク・スズキウォーカー」として欧米市場でのパーソナル・ブランディングを確立。これが広告宣伝費を抑えたブランド浸透と、世界的企業との戦略的提携を可能にしており、グローバル展開における強力な広告塔として資本効率の高い成長を牽引する。



取締役執行役員 事業部長
加藤 栄多郎

市場インサイトによる爆発的グロースの立役者

商学部で培った市場分析と会計学の知見を武器に、徹底した収益性重視の営業戦略を推進する実効型リーダー。現場の一次情報を重視する「三方笑顔」の哲学に基づき、顧客の潜在ニーズを製品開発に即座にフィードバックする体制を構築。世界的大手メーカーでのトップセールス経験を活かし、売上高2億円規模から18億円超へと短期間で急成長させた実績は、同社の営業組織の再現性とエンタープライズ案件（大手菓子メーカー等）の獲得能力を証明している。プロダクト開発と営業戦略を統合し、LTV（顧客生涯価値）を最大化させる仕組みづくりに強みを持つ。

技術の社会実装と品質保証の中核

立命館大学電気電子工学科卒のエンジニアリング背景を持ち、大手製造メーカーから上場企業まで、社会インフラに関わる多様な製品開発を完遂してきた「社会実装のプロフェッショナル」。同氏の強みは、単なる技術開発に留まらず、企画から量産、導入後の品質保証までを一貫してマネジメントできる点にある。技術を「事業の成功」に結びつけるプロダクトマネジメントを重視しており、現場の厳しい要求に応える高品質な製品供給体制を実現。これにより、企業の信頼性向上と、不具合リスクの低減による安定した事業継続を技術側面から支えている。



取締役執行役員 技術室長
中川 陽介



取締役執行役員 管理統括室長
太田 尚友

資本効率の最適化とガバナンスの守護神

経営学修士（MBA）としての戦略的視点と、商社・通信キャリアでの新規事業立ち上げ、さらには3社のIPOを主導した豊富な実務経験を併せ持つ財務戦略のスペシャリスト。M&AやCVC設立、大規模なエクイティ・ラウンドの遂行能力に加え、低コストなデットファイナンスによる最適なキャピタル・ストラクチャーの設計に強みを持つ。IR・広報責任者として、資本市場に対して透明性の高い情報発信を行い、企業価値と株価の相関を意識した経営を実践。財務健全性の維持と成長投資のバランスを高度に制御し、投資家利益の最大化をコミットする管理体制を構築する。

取締役
監査等委員
(常勤)

石田 泰一

1980年4月 カネボウ株式会社入社
1998年4月 同社フィラメント事業部大阪売部長就任
2004年11月 同社フィラメント事業部長就任
2005年7月 KBセーレン株式会社へ転籍、取締役就任
2008年6月 同社監査役就任
2012年9月 エム・テクニク株式会社 入社
2013年9月 ビコエイダ株式会社 入社
2014年2月 当社 入社
2014年4月 当社 管理統括室長就任
2014年11月 当社 取締役就任
2021年11月 当社 取締役・監査等委員（常勤）就任（現任）

取締役
監査等委員
(非常勤)

岩崎 文夫

1972年4月 阪急電鉄 入社
1996年6月 阪急タクシー株式会社取締役就任
2007年4月 同社代表取締役社長就任
2009年6月 能勢電鉄株式会社代表取締役常務就任
2010年4月 学校法人宝塚音楽学校理事・校長就任
2014年11月 当社 監査役就任
2018年11月 当社 社外取締役監査等委員就任
2021年11月 当社 社外取締役監査等委員（非常勤）就任（現任）

取締役
監査等委員
(非常勤)

山元 教育

1996年4月 澤電気機械株式会社 入社
2009年10月 中小企業診断士 登録
2013年4月 当社 監査役就任
2018年11月 当社 社外取締役・監査等委員就任（現任）
2024年4月 澤電気機械株式会社営業部部長就任
2025年4月 澤電気機械株式会社営業本部副本部長就任（現任）

1. (1) トピックス (FY26) 海外拠点

アメリカに販売拠点を設置し、海外でも積極的に販売展開を推進



- | | |
|----------|--|
| 2012 /5 | 中国・大連市にモバイル端末用システム開発拠点として、大連明日星科技有限公司を設立 |
| 2015 /1 | 米国・カリフォルニア州に AsReader の海外販売拠点として、AsReader,Inc. を設立（後にオレゴン州に移転） |
| 2017 /10 | 中国・深圳市に研究開発の技術センターとして、大連明日星科技有限公司深セン分公司を設立 |
| 2026 /7 | 韓国・世宗特別自治市に研究開発の技術センターとして、RFID アルゴリズムおよび次世代技術の研究開発拠点（R&D センター）を設 |

(2) 事業セグメント概要

当社は、RFID を中核技術とする「モノ認識」ソリューション企業です。

「RFID」を中心に、「画像認識」「バーコード」「センサー」「AI」などの先進技術と「AsReader」をはじめとする「モバイル技術」を融合し、人や情報、あらゆるモノをリアルタイムに認識・デジタル化します。

取得したデータをもとに業務「プロセスの自動化」を実現することで、人手を介さない次世代のオペレーションを構築し、小売・物流・製造など幅広い業界の生産性向上と DX を推進します。

モノ認識・自動化

主力商品

バーコードリーダー



RFIDリーダーライター



IrDA (自動販売機)



展開中

画像認識



RFID化ソリューション(スーパー向け)



今後の取り組み

リニア



AsReader 事業

多数の事例が証明、RFID が実現するスマホで業務改革

物流、倉庫、小売、製造、医療など、幅広い業界で RFID の活用が広がっています。AsReader は、RFID を中核に、バーコードや画像認識などのモノ認識技術をスマートフォンで活用できるプラットフォームです。現場の「人・モノ・情報」をリアルタイムにつなぎ、業務の自動化と DX を推進します。AsReader は、RFID を通じて、次世代の現場づくりを支えます。

システムインテグレーション事業

RFID× モバイルが、ビジネスを変革する

RFID を中核技術として、Android・iPhoneをはじめとするスマートデバイス向けアプリケーションの開発から、システム連携までをワンストップで提供します。RFID を軸に、バーコード、画像認識、AI などの先進技術を融合し、人・モノ・情報をリアルタイムにつなぐことで、業務の自動化と生産性向上を実現するシステムインテグレーターです。

1. (2) セグメント別事業概要とビジネスモデル

AsReader 事業

DX 事業部

BtoB

スマートフォン装着型バーコードリーダー、スマートフォンのカメラアプリを使用したバーコードリーダー、スマートフォンカメラでOCRを認識し期限管理を行うアプリケーション「SdcO」などの販売



NX 事業部

BtoB

スマートフォンなどのモバイル端末からRFIDを利用し、モノの情報を簡単に可視化できるRFIDリーダーライター、RFIDパスケット読取ソリューション、情報管理を行うソフトウェアパッケージの販売



AI 事業部

BtoB

BtoC

顔認証技術を活用した端末「AsReader GoMA」の販売を継続および、AIカメラの開発、製品化



LM 事業部

BtoB

リニアモーター技術を活用した新製品の販売に向けた開発



事業連携



顧客連携

システム開発

システムインテグレーション事業

IT 事業部

BtoB

従来のシステム受託開発に加え、新たにパッケージソフトウェアの販売を開始するとともに、AsReaderと連携したソリューションを活用し、お客様のニーズに合わせたシステム開発を提供



(当社の AI 技術を用いたパッケージアプリ)

手のひらサイズで実現する次世代 POS レジ、セルフレジ
POS 「Salasee (セラシー)」



手のひらの次世代POSレジ、セルフレジ

クラウドが絡み、次世代POSのスタンダード。
大企業から中小企業まで、幅広い業種・業態、
業種の垣を越え、自由な流通を実現。



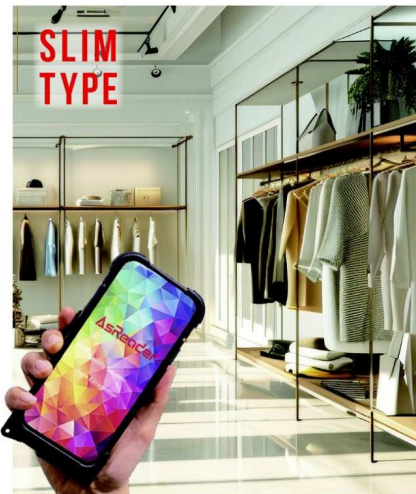
IoT × AsReader = DX

DX

Barcode Reader

スマホとAsReaderが業務改革にお応えいたします

軽量・バッテリーレスタイプ



バッテリーレス

リーダー本体にはバッテリー非搭載
スマートデバイスより給電



約 45g

軽量・薄型

リーダー本体をバッテリー非搭載にしたことで
軽量かつコンパクトな設計を実現



スマホに業務を集約

スマートフォンの機能もアプリも活用
これ1台に業務を集約できます



ASR-025S

軽く、薄く、電源いらず 運用をもっとシンプルに

充電・電源管理の手間をゼロに
設置するだけで、すぐに使える軽量スキャナです

高性能タイプ



ASR-M24D

スマホが“業務用リーダー”に進化

ハンディ端末に匹敵する読取精度と速度
現場の品質をそのままスマートに持ち運べます



スマホに業務を集約

スマートフォンの機能もアプリも活用
これ1台に業務を集約できます



アプリ単体タイプ

AsReader CameraX / AsReader Camera



スマートフォンのカメラで
バーコードを読み取るソフトデコーダー

OCR AsReader Camera OCR



AsCamera がさらに高速に
かざしてすぐに読み取り完了
複数のバーコードも写真1枚で一括読み取り
棚卸しや入荷検品などが一瞬で完了



1. (2) 事業概要および主力製品 DX 事業部

DX

RFID SOLUTION

スーパー向け RFID ソリューション

「RFID スマートカート」

レジに並ばない次世代ショッピングを実現する
「RFID スマートカート」を開発
買い物・決済・顧客認証・店舗業務・防犯を
1台のカートに集約



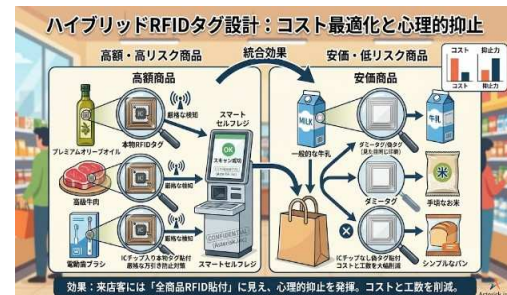
スーパー向け RFID Reading TUB

「商品をカゴに入れるだけ」
顧客のレジ負担はほぼゼロへ
買い物をした際、カゴを置くだけで一瞬にして
会計が終わる、あの「爽快感」をスーパーでも実現



RFID タグ

書き換えを行わない RFID タグを採用し、これまでにない低コストを実現（本技術は特許出願済み）
商品表面から一定距離浮かせてタグを装着する独自技術（特許出願済み）により、水分や金属の影響を
低減。食品や金属包装商品でも、低コストで安定した読み取りを実現します。



NX

飲食店向け RFID SOLUTION

スーパーマーケットに続き、市場規模の大きい飲食業界へ横展開
食材・設備管理の DX で食品ロス削減と HACCP 対応を実現



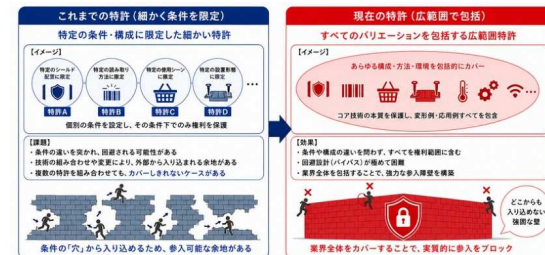
防犯 SOLUTION

POS×RFID による次世代の店舗 DX を推進
「会計の効率化」と「店舗防犯」の両面から RFID の普及を加速させ、
より実用性の高いセルフレジ防犯システムを実現することで、
小売業界全体の業務効率化と新たな価値を創出



広範囲な包括特許を取得

競合他社の参入をさらに困難にする、広範な権利範囲を確保した特許取得
複数商品の RFID 一括読取に関する特許を取得。権利範囲を拡大し、技術優
位性と知的財産保護を強化。



NX

RFID Reader Writer

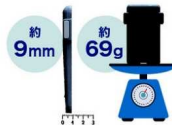
スマホとAsReaderのRFID がワンストップサポートで業務改革にお応えいたします

軽量・バッテリーレスタイプ



バッテリーレス

リーダー本体にはバッテリー非搭載
スマートデバイスより給電



軽量・薄型

リーダー本体もバッテリー非搭載にしたことで
軽量かつコンパクトな設計を実現



スマホに業務を集約

スマートフォンの機能もアプリも活用
これ1台に業務を集約できます



ASR-M30S

バッテリーレスで軽くて薄い
特定小電力で高性能読み取りが可能

長距離タイプ



GUN-Typeの
RFIDリーダーライター
大量の商品も
一瞬で読み取りが可能

読取距離
10m以上
読取速度
最大1000枚以上/秒

GUN-Type ASR-L251G

高所・狭所タイプ

あらゆるスペースをカバー
高所や狭所などの
RFタグが読み取り可能



軽量で充電式なので
持ち運びができ 業務効率化に貢献

PADDLE-Type ASR-P252B



NX

RFID Reader Writer

現場に合わせて選べるUH F帯RFIDリーダーライター

大量のRFIDタグを一気に読める
アンテナ一体型RFIDリーダー
スマートフォン、パソコンなどの
端末と連携

ASR-P351N
出力/200mW (特定小電力)



USBでPCとカンタン接続
アンテナ内蔵でコンパクトな設計

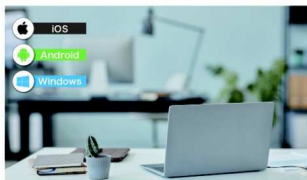
W55mm×H99mm

ASR-P35U
出力/200mW (特定小電力)



使用用途に合わせて様々な
アンテナと組み合わせることが可能な
定置型UHF帯RFIDリーダーライター

ASR-P37U
出力/200mW (特定小電力)



RFID Reading Tub



POSシステムと
連携で簡単決済

カートなどでの
ピックアップ作業

電波を送受信するRFIDアンテナと
電波遮断するための特殊素材を内蔵



鍵出し戻し管理システム

As Key Cube

アンテナ・リーダーが一体になった
定置型RFIDリーダー
Reading Tubの小型モデル

As Key Cubeで鍵の管理はおまかせ



ASR-P36N
出力/200mW (特定小電力)

As Force

RFIDシステムの導入に向けて
システムの構築からRFタグの提供
各種機材の選定、運用までの
総合的支援サービスです



Salasee

IT

AsCode/StmA



Saleses - Sales Sec (南上村田幸三)



画面の動きがなめらかになり、歩きながらも狙ったコードをとらえやすくなりました。近づいてもブレにくく、すばやく快適に読み取れます。



コンビニ・スーパーから
物流まで利用可能
“大量一括読み”AsCodeで期限管理

食品、駐輪場、物流資材
各種サービス利用券など
さまざまなところでの利用が可能



AI

顔認証・人物追跡

手軽に使えて高セキュリティ、
顔認証が提供する次世代のスタンダード

LM

Linear

物流や生産現場での物品の搬送、
飲食店の配膳など幅広い業種に対応！



顔認証

AsReader GOMA

- 入退出・入退場管理
- 顧客管理
- 勤怠管理
- 決済システム管理

高セキュリティ

- 高い信頼性
なりすまし防止
- 偽造対策
- ログ閲覧機能
- 買し横り防止
- 一時的な利用の登録可能

超便利

- 顔だけで簡単に開錠
- スマートフォンから顔認証も簡単設定
- 忘れる心配がない
- 自動検知して自動開錠
- 低価格なランニングコスト



リニアモーター技術を活用した
搬送ロボットシステム
HAKOBU

- 高速・高精度
- 低騒音・低振動・低発塵
- 充電等が不要なため連続運転での利用が可能
- マルチ制御(複数のトレーを各々に動かす)が可能
- 経年劣化が起きにくいのでメンテナンス性に優れる



人物追跡・AIカメラ

店舗、施設、街路などの稼働状況や入店状況などを把握し
人物の属性データを収集します



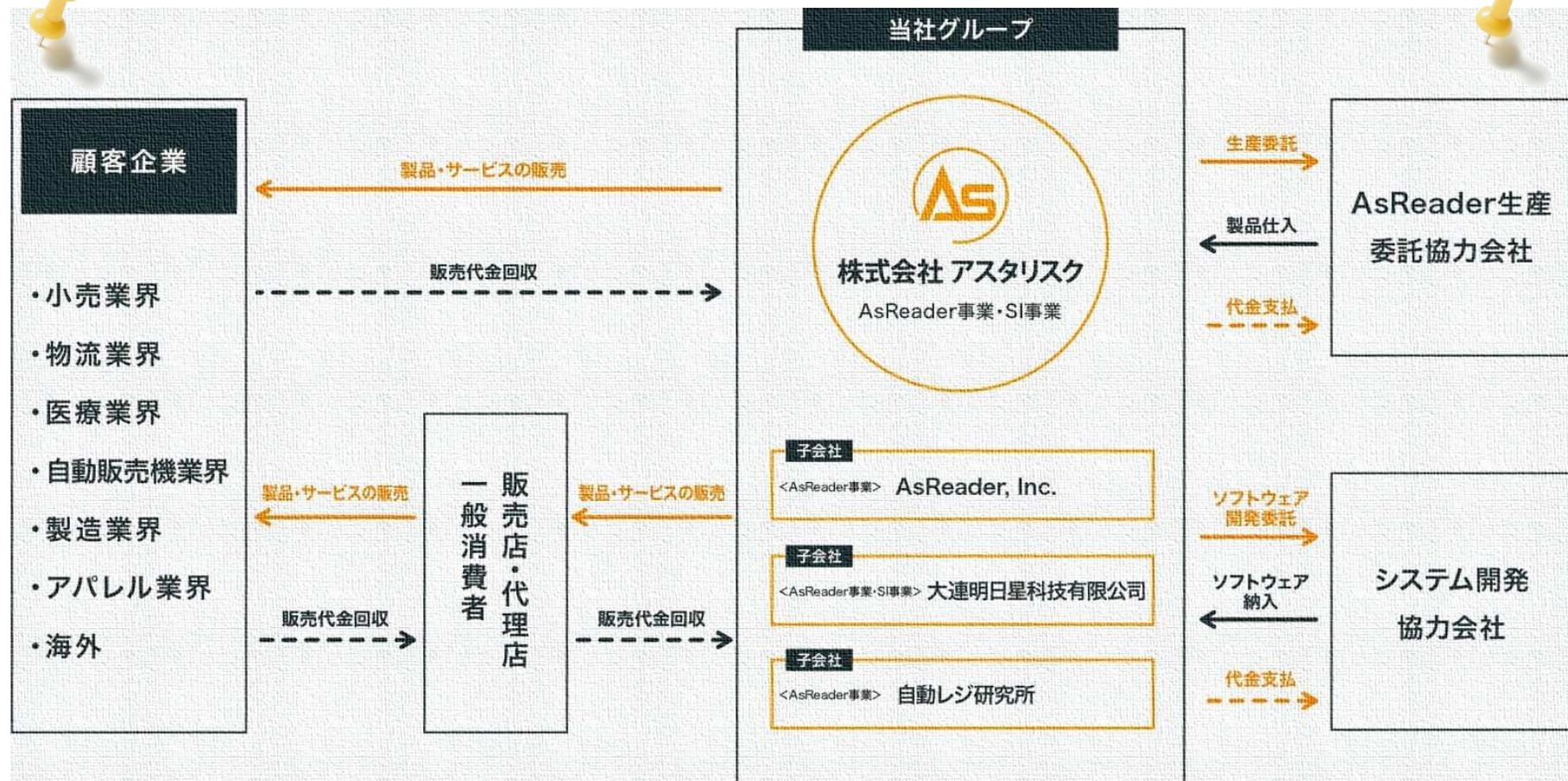
※写真はイメージです



幅広い運用に応じた搬送空間をつくるAsReader HAKOBU
様々な利用シーンで自動化/省人化に向けたアプローチを提案します



1. (2) 収益構造



[モノ認識 × モバイル × 自動化]

II

AsReader®

Traditional
Auto-ID

Next generation
Auto-ID
&
Data Capture

SLIM-TYPE
Barcode Reader
ASR-0255



Barcode(Linear Barcodes)
2D code(Two-dimensional Barcodes)
RFID(Radio Frequency Identification)

SLIM-TYPE
RFID
Reader Writer
ASR-M305



DOCK-Type Combo
Barcode/2D code
RFID(UHF/HF)



GUN-Type
Barcode/2D code
RFID(UHF)



DESKTOP-Type
RFID(UHF)



浮遊搬送ロボット
システム
HAKOBU



CAMERA-Type
Barcode OCR



AsCode



AsReader GoMA



センサー
技術

ニューラル
ネットワーク

ディープ
ラーニング

人工知能
AI

画像認識

アスタリスクは画像認識において、物体検出・動体追跡技術を開発し、実用化へと研究を続けています。IoTの核ともいえるセンサー技術にも取り組み、スマートセンシングなど次世代の自動認識技術の製品化も進めています。

Moving object
tracking solution



国内、海外、大企業様で
続々導入して
いただいています。

流通



物流



製造



医療・介護



海外



その他



1. (2) 導入事例 〈製造・物流・流通編〉



連携
システム

物流

物流管理・配送管理
TCloud for SCM
都築電気株式会社

WMS
ロジザードZERO
ロジザード株式会社

倉庫管理
LogiaRex
日本バレットレンタル株式会社

WMS
ZIZIA ISST
株式会社インフォセンス

在庫管理
在庫マインクラウド
株式会社インフュージョン

流通

Aladdin Office
株式会社 アイル

Seed ID Expre ss
チェックポイントジャパン株式会社

スマレジ
株式会社スマレジ

Multi Platform System
オザックス株式会社

SPIRE
ファークリス株式会社

製造
工場

製造のデータ管理
i-Reporter
株式会社シムトップス

資産管理
Maximo
株式会社エクサ

現場業務管理
eXFrame
株式会社エージェンツ

1. (2) 導入事例〈医療〉

AsReader連携システム

電子カルテ
HOPE PocketChart
富士通Japan株式会社

電子カルテ
e-カルテ
株式会社ソフトウェア・サービス

電子カルテ
MegaOak
らくらく看護師さん
日本電気株式会社

NTT DATA
医食材料IoTプラットフォーム
MD-TraC
株式会社NTTデータ

missnon
調剤通知防止システム
株式会社メディナビ

AsReaderは、各種医療システム(電子カルテ、SPDプラットフォーム、調剤支援システム等)と連携して、ヒヤリハットの削減、作業効率の改善に大きく寄与します。

三点照合



バイタル
検査値自動取得



院内物流管理 (SPD)



POCデバイス



調剤支援



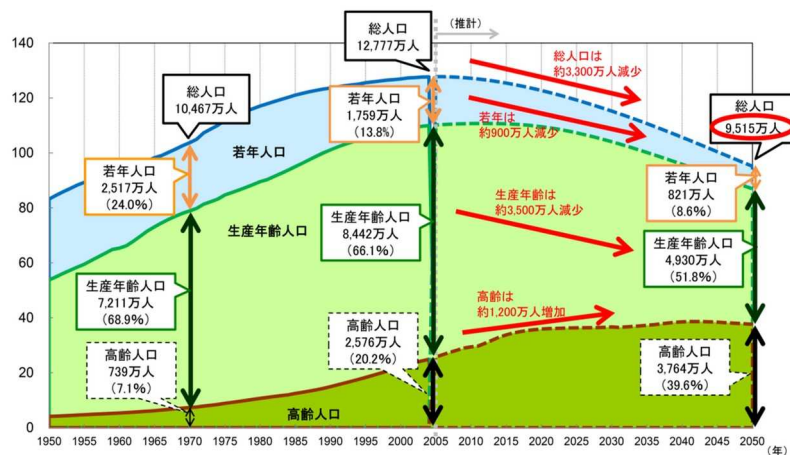
導入病院・医療機関一覧									
あさぎり病院	兵庫県	近畿中央病院	兵庫県	信州大学医学部附属病院	長野県				
池田病院	鹿児島県	熊本整形外科病院	熊本県	新庄徳洲会病院	山形県				
出雲徳洲会病院	島根県	金光病院	岡山県	吹田徳洲会病院	大阪府				
医誠会病院	大阪府	公立学校共済組合 中国中央病院	広島県	生活協同組合ヘルスコープおおさか	大阪府				
タムス市リハビリテーション病院	千葉県	高知県立あき総合病院	高知県	セコムメディック病院	千葉県				
浦添総合病院	沖縄県	高知大学医学部附属病院	高知県	瀬谷ふたつ橋病院	神奈川県				
NTT東日本関東病院	東京都	高良台リハビリテーション病院	福岡県	大生病院	埼玉県				
大垣徳洲会病院	岐阜県	国立病院機構 あきた病院	秋田県	高野病院	熊本県				
大阪市立大学医学部附属病院	大阪府	国立病院機構 沖縄病院	沖縄県	タムス浦安病院	千葉県				
大阪警察病院	大阪府	国立病院機構 高崎総合医療センター	群馬県	天理よろづ相談所病院	奈良県				
沖縄リハビリテーションセンター病院	沖縄県	国立病院機構 東徳島医療センター	徳島県	東京共済病院	東京都				
落合病院	岡山県	国立病院機構 水戸医療センター	茨城県	東京西徳洲会病院	東京都				
小原病院	東京都	神戸市立医療センター中央市民病院	兵庫県	徳島県立中央病院	徳島県				
香川労災病院	香川県	国家公務員共済組合連合会 呉共済病院	広島県	鳥取県立中央病院	鳥取県				
鹿児島国田眼科形成外科	鹿児島県	坂出市立病院	香川県	鳥取大学医学部附属病院	鳥取県				
鹿児島徳洲会病院	鹿児島県	相模原協同病院	神奈川県	豊見城中央病院	沖縄県				
刈谷豊田総合病院	愛知県	佐田病院	富山県	富山病院	富山県				
川口市立医療センター	埼玉県	札幌深仁会リハビリテーション病院	北海道	長野赤十字病院	長野県				
川南病院	宮崎県	札幌徳洲会病院	北海道	長野中央病院	長野県				
菊川市立総合病院	静岡県	札幌東徳洲会病院	北海道	名古屋医療センター	愛知県				
岸和田徳洲会病院	大阪府	佐藤第一病院	大分県	名古屋徳洲会総合病院	愛知県				
北出病院	和歌山県	三条病院	新潟県	成田富里徳洲会病院	千葉県				
北広島病院	広島県	山北徳洲会病院	新潟県	西宮市立中央病院	兵庫県				
吉祥寺南病院	東京都	庄内余目病院	山形県	野崎徳洲会病院	大阪府				
岐阜県立多治見病院	岐阜県	湘南慶育病院	神奈川県	徳原総合病院	静岡県				
京都南病院	京都府	白根徳洲会病院	山梨県	東大阪徳洲会病院	大阪府				
近畿大学病院	大阪府	市立湖西病院	静岡県	日立総合病院	茨城県				

他、全160病院以上で導入(五十音順 敬称略) (2021.7.1 現在)

日本の人口推移

「国土の長期展望」が指摘する通り、日本は人口急減と超高齢社会に伴う「縮小の衝撃」に直面しています。この社会維持を揺るがす危機を克服し、限られた人的資源で持続可能な社会を構築するには、現場の生産性を劇的に向上させるDXの推進が不可欠です。

当社は、独自のモノ認識技術とモバイルを融合させ、この課題に挑みます。RFIDや画像認識技術「AsCode」により、流通・製造現場のアナログ作業を自動化し、人手不足に悩む現場の負担を劇的に軽減します。さらに、環境音とデジタル情報を繋ぐ「AsReader PTT」等のウェアラブルデバイスを通じ、労働環境の改善と業務の高度化を支援。現場の「負」を解消し、一人ひとりの豊かな暮らしと強靱な国土を守り抜くことで、世界に先駆けた新たな成長モデルを提示してまいります。



出典: 「国土の長期展望」中間とりまとめ
概要 (平成 23 年 2 月 21 日) 国土審議会政策部会長期展望委員会

RFID ソリューションの世界市場推移

矢野経済研究所の調査によると、RFID ソリューションの世界市場は 2027 年に 2 兆 3,379 億円規模に達すると予測 (23 年~ 27 年の CAGR 12 %) されています。この背景には深刻な労働力不足や欧州の DPP 規制があり、自動化ニーズが急増しています。

当社はこの成長市場において、トヨタ自動車等への導入実績による高い信頼性を強みに、戦略的優位性を確立しています。2025 年 10 月発売の「ASR-M30S」はバッテリーレス設計で極限の軽量化を実現し、さらに特許出願中の「FIND AsCode」が RFID 運用の弱点であるタグ破損を補完します。人件費削減や離職率改善といった付加価値を提供し、国内はもとより巨大なグローバル市場のシェア獲得を牽引する成長エンジンとして事業を推進してまいります。



矢野経済研究所調べ

注1. メーカー出荷金額ベース (1US\$=150円換算)

注2. 2025年は見込値、2026~2027年は予測値

注3. RFID ICタグ、ハードウェア (リーダー・ライター、デスクトップ型・モバイル型RFIDプリンター)、関連ソフトウェア (ミドルウェア、クラウドサービスを含む) を対象として、算出した。

なお、非接触のICカード、アクティブのICタグと関連機器、関連ソフトウェアは含まない。

引用: 矢野経済研究所, 2025 年 5 月 7 日、RFID ソリューション世界市場の調査結果

https://www.yano.co.jp/market_reports/C66125500

【強み (Strengths)】

- + 独自ブランド「AsReader」の認知度
- + ハードとソフトの統合開発力
- + 特許戦略（RFID）、画像認識関連の高い技術力
- + 開発スピードは業界で圧倒的な速さ
- + 大手企業への導入実績（DX 需要）

【弱み (Weaknesses)】

- Apple 社製品への依存度が高い → 概ね解消
- 特定の業界（物流・小売）への依存 → 飲食業界へも展開
- 海外展開における販売網の構築不足
- 半導体不足などの部材調達リスク



【機会 (Opportunities)】

- + 物流業界の「2024 年問題」による効率化需要
- + RFID 市場の拡大（アパレル・食品等）
- + セルフレジ、無人店舗の普及
- + 海外（米国・欧州）市場の開拓余地

【脅威 (Threats)】

- 競合他社による類似品の台頭
- スマートフォンのカメラ性能向上（専用リーダー不要化）
- 世界的な景気減速による設備投資抑制
- 中国に製造拠点の設置のため、戦争等の地政学リスク

自動認識 (AIDC) ソリューション市場

市場シェア

↑
高

汎用性 (スマホ・アプリ重視)

専門性 (専用ハード重視)

Niche
Market

 Asterisk Inc.

二つの領域を制す RFID 分野で国内有数

- A 社
世界の物流現場でのデファクト
- B 社
物流・倉庫ソリューションで世界トップクラス
- C 社
国内の小売分野での圧倒的シェア
- D 社
国内の小売・流通で強いシェア
- E 社
国内製造・自動化ラインで圧倒的首位

低
↓

- G 社
欧米の BYOD (スマホ活用) メーカー

- F 社
モジュールエンジン国内唯一の専門メーカー

[スマホ活用セグメント]

[専用機セグメント]

アスタリスクは、専用機セグメントの「高性能」とスマホセグメントの「汎用性」

二つの領域をクロスオーバーする唯一無二の立ち位置が、アスタリスクの圧倒的な強み

圧倒的なスピード感で、新製品を次々と市場に投入

- ・他社：製品リリース 3～4 年に 1 機種
- ・当社：1 年平均 2 機種のリリース

2. 2026 年 8 月期 業績ハイライト

(1) 2026年8月期 業績ハイライト

2026 年 8 月期 業績

2026 年 8 月期 概況

売上高

前年同期	2026 年 8 月期	計画
1,666 百万円	1,516 百万円 増減率 -9.0 %	計画比 -33.8 %

営業利益

前年同期	2026 年 8 月期	計画
-125 百万円	-189 百万円 増減率 -	計画比 -

親会社株主に帰属する当期純利益

前年同期	2026 年 8 月期	計画
-182 百万円	-271 百万円 増減率 -	計画比 -

売上高

当期の売上高は、米国子会社 AsReader, Inc. および国内の一部大型案件について、顧客との調整等により売上計上時期が次期以降へずれ込む見込みとなったことから、前年同期比 9.0 % 減となり、計画を下回りました。

一方、主力の AsReader 事業では、既存製品が堅調に推移するとともに、RFID 関連の新製品をローンチし、顔認証プラットフォームの社会実装も進展しております。

また、当期より戦略的に強化しているストックビジネスについても、継続収益につながる案件が着実に増加しております。当期は、新たな取り組みに経営資源を積極的に投下したほか、一部案件の売上計上時期に一時的なずれが生じたものの、中長期的な成長と安定収益の確保に向けた事業基盤は着実に強化されております。

営業利益

当期純利益

営業利益は、売上高の計画未達に加え、事業拡大に向けた研究開発投資や体制強化に伴う人件費の増加、不採算店舗の解消に伴う一時費用により計画を下回りましたが、将来の収益性向上に向けた事業基盤は着実に強化されております。また、当期純利益については、投資先の業績及び財政状態等を踏まえた投資有価証券評価損に加え、連結子会社である自動レジ研究所の事業廃止に伴う損失を計上しております。

市場環境

RFID ソリューションの世界市場は、2024 年の 1 兆 6,431 億円から、2027 年には 2 兆 3,379 億円へ拡大すると予測されています。人手不足に伴う省人化・業務効率化に加え、流通・小売、製造、医療、物流などで活用が進み、欧州を中心とした DPP への対応も市場拡大を後押ししています。RFID は、商品識別や在庫管理にとどまらず、取得データを活用する次世代の業務基盤への発展が期待されています。

2. (1) ビジネスハイライト P/L (連結)

	2025 年 8 月期 期末	2026 年 8 月期 期末	前年同期比
売上高	1,666 百万 円	> 1,516 百万 円	-9.0 %
売上総利益	621 百万円	> 614 百万円	-1.2 %
営業利益	-125 百万円	> -189 百万円	—
経常利益	-128 百万円	> -156 百万円	—
親会社株主に帰属す る当期純利益	-182 百万円	> -271 百万円	—

(百万円)	2025 年 8 月 期 期末	2026 年 8 月 期 期末
流動資産	1,729	3,960
現金および預金	932	3,104
売掛金および契約資産	276	226
商品および製品	404	484
その他	116	144
固定資産	1,051	914
有形固定資産	898	878
無形固定資産	21	6
投資その他の資産	131	29
資産合計	2,781	4,874

(百万円)	2025 年 8 月期 期末	2026 年 8 月期 期末
流動負債	984	983
買掛金	83	117
短期借入金	650	650
一年以内返済予定の 長期借入金 等	21	19
未払金	49	54
その他	179	141
固定負債	67	58
負債合計	1,051	1,041
純資産合計	1,729	3,833
負債・純資産合計	2,781	4,874



(2) トピックス

2. (2) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 9/1 リリース

RFIDリーダー「ASR-M30S」の発売開始
～新サービス「FIND AsCode」も同時リリース～



新型RFIDリーダー「ASR-M30S」



新ソリューション「FIND AsCode」

リリース概要

新型RFIDリーダー「ASR-M30S」と新ソリューション「FIND AsCode」の提供を開始します。

トヨタ自動車での採用実績を持つ従来機の後継となる「ASR-M30S」は、スマホからの給電によるバッテリーレス設計で劇的な軽量・薄型化を実現。読み取り距離も約2倍に向上し、現場の負荷軽減と作業効率化を両立させました。

併せて提供する「FIND AsCode」は、特許出願中の独自技術を用い、RFID運用の長年の課題であった「タグの破損」を解決します。RFIDと独自コード「AsCode」を紐付けることで、電波で検知できない破損タグをカメラで瞬時に特定。アパレルや製造現場でのロスタイムを最小化します。これらはサプライチェーンを高度化するグローバル戦略の核として、欧米市場への展開も視野に入れた革新的なサービスです。

新サービス提供開始 9/29 リリース

“大量一括読み”AsCodeで期限管理を革新する新
アプリ「StmA（エスティマ）」の提供開始
～コンビニ・スーパーから物流まで利用可能に～



リリース概要

「StmA（エスティマ）」は、特許出願中の独自技術「AsCode」によって世界の現場効率化をリードする革新的ソリューションです。

最大の特徴は、従来のバーコードや目視確認の常識を覆す「圧倒的な同時読み取り性能」にあります。スマートフォンをかざすだけで数十点の商品期限を瞬時に判別し、直感的な色とマークで可視化することで、バックヤード業務の劇的な省人化と廃棄ロス削減を同時に実現します。本アプリは食品管理に留まらず、物流資材や駐輪場管理など多角的な展開が可能であり、多言語対応によって既に欧米やアジアなどグローバル市場を見据えた知財戦略を推進しています。月額1,000円から導入可能な低コストかつ高収益なサブスクリプションモデルを武器に、世界標準のインフラを目指して急速な市場拡大を牽引します。

2. (2) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 10/15 リリース

Bluetooth 接続の“耳を塞がない”
ヘッドセット「AsReader PTT」を提供開始
～“Air 伝導”方式により、快適で自然な通話環境を実現～



リリース概要

「AsReader PTT」は、独自の「Air伝導」方式により、現場のコミュニケーションを再定義する革新的なウェアラブルデバイスです。従来の骨伝導方式の欠点であった不快な振動や音のこもりを解消し、クリアな音質を実現しました。耳を塞がない設計により、接客や機械の異音検知など、周囲の環境音を必要とするプロフェッショナルの現場でも安全かつ確実な情報共有を可能にします。

32gの超軽量設計、160時間の連続待機、IP54の防塵・防水性能を備え、医療から製造まであらゆる産業のDXを支えるインフラとして高い実用性を誇ります。既存の

「AsReader」シリーズとのシナジーにより、現場効率化市場における圧倒的なシェア拡大と収益成長が期待されます。

新サービス提供開始 12/3 リリース

POS「Salasee（セラシー）」の販売開始
～手のひらサイズで実現する次世代POSレジ、セルフレジ～



リリース概要

自社ブランドのクラウドPOSシステム「Salasee（セラシー）」は、かつて大手企業へ譲渡した同ブランドを、上場による財務基盤の強化と長年の技術蓄積、そして主力製品「AsReader」とのシナジーを背景に、満を持して自社サービスとして復活させます。

「Salasee」は、スマートフォン1台で決済から在庫管理までを完結させる機動的な運用と、Windows端末による自由度の高いレジ構築の両面を兼ね備えています。特にメーカーを問わない周辺機器との柔軟な接続性は、既存設備を活かした循環型の導入を可能にし、百貨店やアパレル、食品メーカーなど多種多様な現場の課題を解決します。単なるレジの枠を超え、売り場のデジタル化を強力に推進するプラットフォームとして展開します。

2. (2) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 12/15 リリース

RFID 導入のハードルを解消！検証作業と製品選定の負担を大幅軽減する

「RFID スターターキット」の提供開始

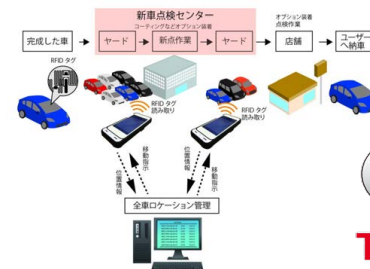


リリース概要

「RFIDスターターキット」は、導入の大きな障壁となっていた専門的な検証作業や製品選定の負担を劇的に軽減する画期的なソリューションです。従来、RFIDの導入には環境に応じた読取りテストや、膨大な種類の機器・タグから最適な組み合わせを見つけ出す高度な知見と多大な時間を要していましたが、本キットはこれらをワンパッケージ化することで、専門知識がなくても低リスクかつスピーディーに運用を開始できる環境を実現しました。本キットには、実績豊富なリーダーライターと多様な材質のタグ、さらには最適な読取りを実現するための環境構築ノウハウが凝縮されており、本格導入前の概念実証（PoC）を効率的に進めることが可能となります。これにより、導入失敗のリスクを最小限に抑えながら、現場のDXを迅速に推し進めることが可能となります。

新サービス提供開始 1/19 リリース

トヨタ自動車の完成車物流システムにおいて継続採用



TDISは従来の「TOYOTA Delivery Information System」
新車の検出センターにおいて下記を基盤とするシステム

リリース概要

トヨタ自動車では2015年より、新車点検センターにおいてRFIDを活用した完成車物流システム「TDIS」を運用しています。車両ごとのRFIDタグとスマートフォンを連携させることで、車両の所在管理から作業進捗の入力までをヤード内で完結させ、大幅な業務効率化を実現してきました。この運用を支えるRFIDリーダーは、スマートフォンの機種変更時にも専用ケースを替えるだけで継続利用できる点が評価され、約10年にわたり採用されています。

今回、iPhoneのUSB Type-C移行に伴い導入された最新モデル「ASR-M30S」は、バッテリー設計による薄型・軽量化が特徴で、必要な時だけ給電して使用できる利便性を備えています。本事例は、業務用端末が従来の専用ハンディターミナルからスマートフォンへと移行し、現場のDXを加速させている象徴的なモデルケースといえます。

2. (2) トピックス (FY26)

新サービス提供開始 2/24 リリース

大手アパレル企業「株式会社ワールド」へRFIDリーダー『AsReader』を導入

～国内約7,000名規模のグループ店舗におけるDX化を加速し、店舗オペレーションの革新を実現～



リリース概要

今回の導入の最大の特長は、店舗の美観や接客スタイルを損なわない高いデザイン性とカスタマイズ性です。小型アンテナとRFIDリーダー（ASR-P37U）を組み合わせることで、服を畳む動作の流れで会計が完了する「ハンズフリー読み取り」を実現。

さらに、あべのハルカス近鉄本店の「アンタイトル」のようなラグジュアリーな空間では、什器内部にアンテナ内蔵型リーダー（ASR-P35U）を設置し、限られたカウンタースペースの有効活用とブランドの世界観の維持を両立させています。

国内最大手企業へのこの導入実績は、製品の信頼性と技術力を証明する重要なマイルストーンとなります。今後はグループ内への展開に加え、保守やデータ活用支援を通じた中長期的なパートナーシップを構築することで、リテール業界全体のDXを牽引する旗艦事例としての役割を担っていきます。

RFIDレジ関連特許の再取得 3/16 リリース

特許権譲受（再取得）の決定および「グローバル標準レジ戦略」の本格始動



リリース概要

RFIDセルフレジ関連の基幹特許7件を完全自社保有化し、「グローバル標準レジ戦略」を本格始動させます。本特許は、世界最大手アパレルグループの国内外数千店舗で年間数億点の決済を支える、圧倒的な稼働実績を持つ革新的技術です。今回の特許再取得により、外部に依存しない迅速な意思決定が可能となり、国内外の小売・物流市場へのライセンス供与を自社主導で加速させます。従来のハードウェア販売に加え、高利益率なロイヤリティ収益を柱とするストック型ビジネスモデルへの転換を図り、業界のプラットフォームホルダーとしての地位確立を目指します。

実証済みの「社会インフラ」としての知財基盤を独占的に活用することで、中長期的な企業価値の飛躍的な向上が期待されます。今後、この強固な知財戦略を武器に、グローバルな決済インフラの標準化を強力に推進していく方針です。

2. (2) トピックス (FY26)

戦略的業務提携の開始 3/17 リリース

コーユーイノテックスとアスタリスク
「顔認証システム」導入で戦略的な業務提携を開始



リリース概要

コーユーレンティアの子会社であるコーユーイノテックスと、顔認証システム等の導入に関する包括的な業務提携を開始しました。本提携は、拡大する生体認証市場を見据え、アスタリスクの高度な顔認証技術やAIソリューションと、コーユーイノテックスが持つ全国規模の施工・保守ネットワークを融合させるものです。

これにより、アスタリスクはハードウェア販売に留まらず、アプリ開発から設置工事までをワンストップで提供する体制を構築し、高付加価値なストック型収益モデルへの転換を加速させます。両社の顧客基盤を相互に活用することで、流通・小売から建設、医療、データセンターまで幅広い業界へ販路を拡大し、次世代の現場インフラとしての地位確立を狙います。本提携により、アパレル等のリテール企業への横展開に向けた強力な推進力となり、中長期的な企業価値の向上を実現する成長ドライバーとなります。

次世代リニアの発表 3/30 リリース

「浮かぶ搬送」アスタリスク、次世代リニア搬送システムを発表

コンペアの次を狙う「浮かぶ搬送」という新しいインフラ「AsReader HAKOBU」



リリース概要

リニアモーター技術を応用し、搬送体が浮上して走行する次世代リニア搬送システム「AsReader HAKOBU」のコンセプトモデルを発表しました。本システムは、搬送体がレールに接触しない「浮かぶ搬送」を実現することで、摩擦を大幅に低減し、重い荷物でも小さな力で搬送できるのが特徴です。摩耗部品が少ないため保守性が高く、さらにバッテリーに依存しない給電型を採用しているため、従来の機器では対応が難しかった冷凍・冷蔵環境や食品工場でも安定した稼働が可能です。同社は人手不足が深刻な物流倉庫や工場、店舗などの自動化を支える新インフラとして社会実装を目指しており、2026年4月に開催される「第7回 関西物流展」や米国の「MODEX 2026」での公開、および年内の実証実験を予定しています。今後はRFIDやIoT技術と融合させ、搬送とデータを連携させた新しい自動化プラットフォームの構築を推進していく方針です。

2. (2) トピックス (FY26)

EVO FUND社の新株予約権権利行使による資金調達

当社が2024年9月17日にEVO FUNDに対して発行した新株予約権について、一部権利行使および払込が完了いたしましたのでお知らせいたします。

第三者割当による第5回～第7回新株予約権（行使価額固定型）の募集概要

	割当先	個数	株式の種類と数	1株当たり行使価格	発行決議日	権利行使期限
第5回新株予約権	EVO FUND トリプルウィン	3,600個	普通株式 360,000株	550円	2024年8月30日	2027年9月17日
第6回新株予約権	EVO FUND トリプルウィン	2,000個	普通株式 200,000株	700円		
第7回新株予約権	EVO FUND トリプルウィン	1,000個	普通株式 100,000株	1,000円		

※第1回～第4回および第8回新株予約権は役員および従業員を割当先としたストック・オプションになります。

※2026年4月14日時点の状況になります。

リリース概要

2026年3月19日付で第6回新株予約権（160,000株）、同年3月24日付で第7回新株予約権（80,000株）の行使が行われ、合計1億9,200万円の資金調達を実施いたしました。

本件に伴い、資本金および資本準備金がそれぞれ96百万円ずつ増加しております。なお、本権利行使をもちまして、EVO FUNDに対する割当分のすべてが行使完了となりました。

新技術開発の発表

4/7 リリース

アスタリスク、ブラウザから業務機器を制御する新技術を開発

OSや機器の違いを吸収し、Webアプリからバーコード・RFID・プリンタ等を操作（特許出願済）



リリース概要

当社が独自開発し特許出願した新技術は、WebSocket通信を活用して標準ブラウザから外付け業務機器を制御する仕組みです。スマートデバイスに軽量のコントロールアプリを導入することで、OS（iOS/Android）や接続機器ごとの仕様差をアプリ側で吸収し、Webアプリケーション側からは共通のプログラムで操作が可能になります。

これにより、従来必要だったOSごとの個別開発やドライバ対応が不要となり、開発コストの大幅な削減とシステム導入の迅速化を実現します。バーコードリーダーやプリンタなどの機器をクラウドシステムとシームレスに連携できるこの技術は、今後自社製品への搭載や他社へのライセンス提供を通じて、業務端末のWeb化と業界のDX推進を加速させる一助となります。

2. (2) トピックス (FY26)

西鉄ストア全拠点における「AsReader GoMA」導入4/21 リリース

西鉄ストア全拠点における「AsReader GoMA」導入を発表

R&D から商用フェーズへ。国内最大級の顔認証リプレイスプロジェクト、小売業界のDXを牽引



リリース概要

西鉄ストアの全拠点に対し、顔認証プラットフォーム「AsReader GoMA」を導入しました。本プロジェクトは、既存機器の販売終了に伴う刷新を機に、入退館・勤怠・体調管理という従来別個だったシステムを一元化したものです。最大の特徴は、国内最大級の規模で「運用の無人化・省力化」を実現した点にあります。API連携により人事システムとの自動登録を可能にしたほか、新開発の表面温度センサーを統合し、1台のデバイスで多機能を完結させました。同社はこれまで研究開発拠点での実証実験を重ねてきましたが、今回の全店導入により、技術が大規模な商用フェーズで通用することを証明しました。今後はこの成功をモデルケースとして、深刻な人手不足に悩む小売・サービス業界全体へ、ハードウェアを軸としたサブスクリプション型サービスを水平展開し、業界のデジタルトランスフォーメーションを牽引していく構えです。

「新型AsReader」を導入 6/1 リリース

青山商事様、「新型AsReader」を導入

「スマホ1台」が店舗運営の常識を変える。棚卸しの大幅な時短と現場ストレスの解消を実現



リリース概要

青山商事の全店舗の約7割に当たる445店舗に、新型スマートフォン装着型バーコードリーダー「AsReader スリムタイプ」を導入しました。青山商事では、接客時の在庫確認にスマホ内蔵カメラを、大量の読み取りが必要な棚卸しには専用ハンディ端末を使い分けていましたが、操作の煩雑さや習熟コストが課題となっていました。今回導入された新型デバイスは、スマホと一体化しながらプロ仕様のスキャン性能を付加するものです。高精度なレーザー照射により、画面を注視せず連続して読み取る「ブラインドスキャン」が可能となり、棚卸し作業の大幅な時短を実現しました。これにより、スタッフは使い慣れたスマホ1台で全業務を完結でき、現場のストレスが解消されるとともに、より付加価値の高い接客へ注力できるようになりました。同社は今後も、専用端末からスマホへのシフトという世界的な潮流を捉え、小売業のDXを強力に支援していく方針です。

2. (2) トピックス (FY26)

本新株予約権発行 (TIP) による資金調達 6/26 リリース

新株予約権の発行並びに新株予約権の 買取契約 (TIP) の締結に関するお知らせ

◆ 当社グループは以下の成長戦略を推進しております。

- ① 既存主力事業「AsReader」の市場シェア拡大
- ② 新技術・新製品の開発／販売 (次世代リニア搬送システム「AsReader HAKOBU」、AsReader GoMA、Reading Tub、As Key Cube、デジタルショーケース等)
- ③ 物流自動化・RFID・IoT・AI・画像認識・システム開発分野でのM&A及び戦略投資

これらの戦略実行のため、「AsReader HAKOBU」の研究開発・製品化資金、新製品群の販売拡大に向けた製造・仕入資金、さらに成長機会を機動的に取り込むためのM&A・資本業務提携を実行できる財務基盤の強化資金が必要となっております。

こうした成長戦略を着実かつ迅速に実行し企業価値向上を図るため、本新株予約権の発行による資金調達を実施することと致しました。

リリース概要

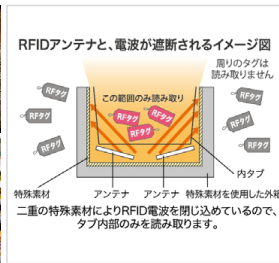
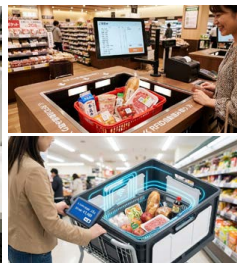
	新株予約権 (ターゲット・イシュー・プログラム)		
	第9回	第10回	合計
割当予定先	EVO FUND		
発行決議日	2026年6月26日		
発行・払込日	2026年7月13日		
権利行使期間	2026年7月14日～2029年7月13日 (3年間)		
対象株式数	575,000株	575,000株	1,150,000株
希薄化率	7.15%	7.15%	14.31% ※ (議決権ベース14.32%)
行使価額	1,800円	2,000円	
調達資金の額	10.35億円	11.5億円	21.85億円
発行価額	299円	261円	
その他	2027年1月13日以降、取締役会決議により、取締役会決議前取引日終値の90%に相当する金額に行使価額を修正することができます。但し、下限行使価額を下限とします。 ※下限行使価額：509円 ※行使価額の修正を行った場合、再度行使価額を修正する場合は6ヶ月のインターバルが必要		

※2026年4月14日現在の当社発行済株式総数8,038,800株及び議決権数80,295個を分母とする。

「全商品RFID化ソリューション」提供開始 6/30 リリース

スーパーマーケット向け『全商品RFID化ソリューション』の本格展開を開始

特許技術により参入障壁を構築、全商品RFID化の実現を推進



リリース概要

食品スーパー向け「全商品RFID化ソリューション」の本格展開を開始しました。ユニクロ等で定着した「カゴごと一括会計」を食品スーパーでも実現し、レジ待ちのない買い物体験やリアルタイム在庫管理による店舗の構造変革に挑戦します。導入の大きな障壁であった水分や金属による電波への影響は、タグを商品表面から浮かせる独自技術で克服。また、タグに固有IDのみを持たせ情報をクラウド管理する方式 (ともに特許出願済) により、タグの低コスト化と大量貼付の工数削減を両立しました。既存のラベル貼付設備や稼働中のPOSシステムに手を加えずに導入できる高い汎用性も備えています。本プラットフォームは棚・カート・レジ・物流をRFIDで統合し、リアルタイムでの自動在庫管理や賞味期限管理の高度化、ネットスーパーの効率化などを実現します。画像認識方式に比べ個体識別やトレーサビリティ管理にも適しており、国内外での強固な特許ポートフォリオを武器に高い参入障壁を構築し、未開拓な市場を強力に牽引します。

2. (2) トピックス (FY26)

米国のプレスリリース配信サービス「EIN Presswire」を通じて、大々的にリリース 7/6 リリース

米国市場におけるRFIDソリューション事業を本格展開

～米国特許取得を基盤に、北米市場で「AsReader RFID Reading TUB」の展開を加速～

リリース概要

今回、新たに取得した米国特許を基盤として、米国子会社AsReader, Inc.を通じ、北米市場におけるRFIDソリューション事業を本格展開します。あわせて、RFIDバスケット読取ソリューション「AsReader RFID Reading TUB」の販売を開始し、北米市場での事業拡大を加速いたします。

今回取得した米国特許は、RFIDタグが付いた複数の商品を買いかごやコンテナ内で一括かつ高精度に読み取る技術を広くカバーしており、セルフレジや在庫管理などの分野で重要な知的財産となります。当社はこれまでもRFID関連特許を国内外で取得してまいりましたが、今回の特許取得により知的財産ポートフォリオはさらに強化されました。これにより、当社の競争優位性が一層高まるとともに、同分野への新規参入企業にとっては技術的・知的財産的な参入障壁がさらに厚くなり、当社の優位性を長期的に支える重要な資産となります。

「AsReader RFID Reading TUB」は、日本国内での実証・運用を通じて改良を重ねてきたソリューションであり、レジ処理時間の短縮、読み漏れ防止、在庫精度の向上、人手不足への対応など、小売業界が抱えるさまざまな課題の解決に貢献します。また、独自のRFID読取制御技術により、周囲の商品を誤読することなく高い読取精度と安定した運用を実現しています。

今後は、米国、カナダ、メキシコを中心に販売活動を強化するとともに、POSメーカー、RFIDタグメーカー、Slerなどのパートナー企業との連携を拡大し、アパレル分野に加え、スーパーマーケット、物流、医療、倉庫、サプライチェーン分野への展開を推進してまいります。当社は、日本で培ったRFID技術と知的財産を活用し、グローバル市場におけるRFIDソリューション事業をさらに拡大するとともに、継続的な技術開発と特許取得を通じて、中長期的な企業価値の向上を目指します。

AsReader Announces Expansion of RFID Basket-Reading Solutions into North America with New Broadscope Patent

NEWS PROVIDED BY
AsReader
July 06, 2026, 12:00 CMT

Newly-approved U.S. patent strengthens technology platform for retail apparel, grocery, and automation applications while enhancing consumers' buying experience

Asterisk (TSE:6522)

PORTLAND, OR, UNITED STATES, July 6, 2026 /[EINPresswire.com](https://www.einpresswire.com/)/ ~ **AsReader**, Inc., a provider of RFID and retail automation technologies, today announced the expansion of its RFID basket-reading solutions to now include the entire North American market. This will speed consumers through self-checkout lanes as they won't need to scan every item, and it will help retailers with more accurate checkouts, thereby reducing loss of missed items in carts. While Asterisk has previously obtained multiple U.S. patents related to RFID technologies, this latest broadscope patent is particularly significant because it provides broad patent protection for RFID basket-reading technology in retail operations in environments

such as apparel items, supermarkets, and other retail applications.

"We bring proven RFID technologies from Japan to retailers throughout North America; RFID enables retailers to improve customers' experience, reduce labor requirements, and see real-time inventory."

— **Paul Whitney**, Vice President and COO of AsReader, Inc.

Called the **AsReader RFID Reading TUB**, the Point-of-Sale device has been developed, tested and implemented in Japan by parent company **Asterisk, Inc.** AsReader's RFID

technology enables retailers to instantly identify multiple tagged items placed together inside a shopping basket, tote, container, or checkout area. The technology has been deployed in apparel and specialty retail environments where RFID-based inventory management and checkout systems have become widely adopted, but not approved for use in North America until now.

A key advantage to consumers and retailers of the AsReader platform is its proprietary RFID reading architecture, which creates a controlled reading zone capable of accurately identifying tagged items placed inside the basket while minimizing unintended reads from surrounding products. This enables both high read accuracy and operational reliability in busy retail environments.



Customer has placed entire contents of cart in the AsReader Reading TUB for easy self checkout



Peek into the cart of shopper with a cart full of RFID tagged items she will check out quickly using AsReader's new reading tub



Author Contact

Sally Murdoch
AsReader, Inc.
+1 503-734-5943
[email us here](mailto:sally@asreader.com)

More From This Source

[Paul A. Whitney of AsReader, Inc. wins the Don Percival award from AIA Global](#)
[AsReader Launches ASR-M305 SLIM-Type Smartphone-Mounted RFID Reading TUBs](#)
[AsReader's New 'AsGomgo'X Aims to Enhance Barcode Scanning Power via Employee Smartphones](#)
[View All Stories From This Source](#)

2. (2) トピックス (FY26)

飲食店向け RFID ソリューションを発表 7/9 リリース

スーパーマーケットに続き、市場規模の大きい飲食業界へ横展開。食材・設備管理の DX で食品ロス削減と HACCP 対応を実現



RFIDリーダーによる冷蔵庫や冷凍庫、倉庫などに保管された食材管理。開封後の使用期限をRFIDで自動的に管理。(イメージ図)

リリース概要

スーパーマーケット向けRFIDソリューションで培った技術とノウハウを活用し、新たに飲食店向けの食材・設備管理ソリューションを展開します。金属や水分の影響を受けにくい「半分浮かせるRFIDタグ」と一括読み取り技術により、食材の在庫数、入出庫履歴、賞味・消費期限、開封後の使用期限などを自動管理します。また、温度・湿度センサーを搭載したRFIDタグにも対応し、冷蔵庫・冷凍庫などの設備監視と衛生管理を一体化することで、食品ロスの削減やHACCP対応、業務効率化、店舗運営の標準化を支援します。外国人スタッフを含め、誰が作業しても一定の品質を確保できる運用環境の構築にも貢献します。既に複数の大手外食チェーンやフランチャイズ企業と、具体的な導入に向けた協議や実証実験の準備を進めています。今後は、複数店舗を統括する本部システムやサプライチェーン全体とのデータ連携、海外市場への展開も視野に入れ、リテールDX事業の「第二の成長ドライバー」として育成してまいります。

韓国R&D拠点開設に関するリリース 7/13 リリース

世界市場へ本格始動。アスタリスク、韓国R&D拠点を開設しアジア展開体制を強化
～『全商品RFID化』を世界へ グローバル技術開発と海外展開を本格加速～

リリース概要

株式会社アスタリスクは、韓国市場への本格参入と韓国RFID研究開発（R&D）センターの設立を決定しました。これにより、日本・中国（大連・深圳）・韓国・米国を結ぶ世界4か国体制を構築し、RFIDソリューションの研究開発から製造・販売までをグローバルに推進します。

韓国では優秀なRFIDエンジニアの確保と先端技術の取り込みを進め、食品スーパーマーケット向け「全商品RFID化ソリューション」の実用化を加速します。特に、水分や金属包装商品の読み取り性能向上やタグの低コスト化などの技術課題を解決し、競争力強化を図ります。深圳はハードウェア・タグメーカー連携、大連はソフトウェア開発、韓国は次世代RFID技術研究、米国は市場開拓を担い、各拠点が連携することで世界展開を推進します。

今後はアジア・米州での導入拡大を進め、「全商品RFID化」のデファクトスタンダード確立を目指すとともに、機器販売に加えタグ、クラウド、保守、システム連携など継続収益の拡大を通じて企業価値向上を図ります。

2. (2) トピックス (FY26)

三井住友カードとの連携 7/14 リリース

POS「Salasee」、三井住友カードの決済プラットフォーム「stera」との連携に関するお知らせ
～ RFID かご一括読み取りレジ・セルフレジ・モバイル決済を統合～



三井住友カード



Asterisk Inc.

リリース概要

POSレジシステム「Salasee（セラシー）」が、三井住友カード株式会社の決済プラットフォーム「stera」と連携したことをお知らせします。これにより、セルフレジ・セミセルフレジでは「stera terminal」、モバイルレジでは「stera fasstap」、顧客自身によるWeb決済では「stera smart one」を活用し、多様なキャッシュレス決済に対応します。また、当社のRFID・バーコード読み取り機器「AsReader」と連携することで、買い物かご内の商品を一括で読み取るRFIDレジやスマートフォン型リーダーを活用した次世代レジを実現し、会計時間の短縮や省人化に貢献します。本ソリューションは年内開設予定の実証実験店舗で公開予定です。さらに、「読み取り機器」「POSレジ」「キャッシュレス決済」を統合した店舗DXソリューションを提供することで、ハードウェア販売とPOS事業の相乗効果を創出します。当社のAsReaderは従来どおり他社POSとも連携可能であり、今後も小売・流通業界の業務効率化と利便性向上に貢献してまいります。なお、本件が2026年8月期連結業績へ与える影響は現在精査中ですが、中長期的な業績向上に資するものと考えています。

「coca」旗艦店へ導入について 8/4 リリース

RFID ソリューション販売開始。次世代 RFID ソリューション『AsReader BOX-Type』、「coca」旗艦店への導入のお知らせ ～全国 100 店舗以上を展開する adapt retailing で店舗 DX を実証、中長期の業績拡大へ本格着手～



「coca ダイバーシティ東京プラザ店」

リリース概要

次世代RFIDソリューション『AsReader BOX-Type』の本格販売・事業化フェーズへ移行し、アパレルブランド「coca」を展開するadapt retailingの旗艦店「coca ダイバーシティ東京プラザ店」に導入されたと発表しました。本製品は本体とアンテナ部が分離した独自構造を持ち、レジカウンター内部などにすっきり収まる高い設置自由度が特徴です。商品をかざす・置くだけで一括読み取りができる「ハンズフリー会計」を実現し、会計待ち時間の極小化を図ります。さらに、入荷検品や棚卸業務のスピードアップにより、店舗スタッフが接客やVMDなどの高付加価値業務に集中できる店舗DX環境を構築します。今後は全国100店舗以上を展開する同社での実証と運用定着を足がかりに、量産展開や他アパレル・流通大手企業への横展開を推進し、中長期的な業績成長および企業価値の向上を目指します。

2. (2) トピックス (FY26)

『AsReader HAKOBU』の実証運用 8/5 リリース

新型配膳ロボット『AsReader HAKOBU』の実証運用 を実店舗にて開始



リリース概要

配膳ロボット『AsReader HAKOBU』の本格実証運用を、2026年8月5日オープン飲食店にて開始したと発表しました。本店舗は共同開発による「次世代型DXモデル店舗」です。ロボットによる配膳・下げ膳の自動化で店舗オペレーションを効率化するほか、入口横には三井住友カードの「stera tap」と連携した無人販売BOXを設置し、テイクアウト用お弁当の完全キャッシュレス自動販売を開始します。さらに今後は、同社の強みであるRFID技術を活用し、食材の賞味期限や在庫、設備・備品までを単一プラットフォームで一元管理するソリューションの導入も予定しています。「無人販売（売上拡大）」「ロボット配膳（人件費削減）」「RFID管理（ロス削減）」を組み合わせた総合DXパッケージとして本実証店舗でノウハウを蓄積し、人手不足に悩む外食産業やホテル等への全国水平展開を推進することで、中長期的な業績拡大を目指します。

約 126 兆円規模の米国政府調達市場へ 8/12リリース

米国子会社 AsReader, Inc.が米国政府調達システム 「SAM.gov」への登録を完了

米国政府調達システム「SAM.gov」への登録は、厳格な審査を経た貴重な事業基盤
～ 約 126 兆円規模の巨大市場へのアクセスを可能にする「信頼の証」～



リリース概要

AsReader, Inc.は、米国連邦政府の調達・事業者登録システム「SAM.gov」への登録を完了し、2026年8月9日付でActive Registrationとなりました。2025会計年度の米国連邦政府全体の契約額は約7,930億米ドル（約126兆円）に上り、世界最大級の政府調達市場を形成しています。今回の登録により、AsReader, Inc.にはCAGE Code、日本親会社である当社にはNCAGE Codeが付与され、米国政府・防衛・公共分野の調達案件に取り組むための事業者識別・登録基盤が整いました。当社グループはこれまで、AsReaderを活用した資産・備品・倉庫・在庫、物流、装備品・工具などの管理に関する提案活動を進めており、今回の登録を既存案件の具体化と新規案件の開拓につなげます。

2. (2) トピックス (FY26)

「RFIDスマートカート」を開発 8/24リリース

レジに並ばない次世代ショッピングを実現する 「RFIDスマートカート」を開発

～買い物・決済・顧客認証・店舗業務・防犯を1台のカートに集約～



リリース概要

商品をカゴに入れるだけで認識・決済が完了し、レジに並ばず退店できる「RFIDスマートカート」の開発を本格化しました。独自のRFID読取領域制御技術により、カート内の商品を正確に一括認識します。顧客認証や決済に加え、カート外側のRFIDリーダーによる在庫確認・棚卸し・補充支援、エッジAI画像認識を組み合わせた不正検知など、買い物・店舗業務・防犯を1台に集約します。ディスプレイでは、購入商品に応じた関連商品の提案や広告を表示し、リテールメディアとしての活用も想定しています。POSシステム「Salasee」や決済端末「stera」と連携するほか、他社POSにも対応可能です。関連技術について国内特許を取得し、海外展開を見据えたPCT国際出願も実施しています。2027年の実用化に向け、国内外の展示会で公開し、小売・決済事業者等との実証実験や協業を加速させ、次世代リテールプラットフォームとして展開してまいります。

スマレジとRFIDレジ加速で協業 8/25リリース

スマレジとアスタリスク、RFIDレジ加速で協業開始 ～RFID一括会計の普及を促進、店舗防犯への活用も検討～



Asterisk Inc.

リリース概要

スマレジとアスタリスクは、店舗におけるRFIDレジの本格普及を加速するため、協業を開始しました。人手不足や人件費の高騰を背景にセルフレジの導入が進む一方、従来のバーコード方式では商品を一点ずつ読み取る必要があり、会計時間や操作負担、読み取り漏れ、スタッフの習熟度による処理品質の差などが課題となっています。両社が推進するRFIDレジでは、商品にRFIDタグを装着し、買い物カゴを読み取りエリアに置くだけで複数の商品を一括認識して会計につなげます。セルフレジでは利用者の負担を軽減し、有人レジでは処理時間の短縮と正確性の向上を図ることで、レジ待ち時間の削減や店舗運営の効率化を実現します。アスタリスクが有する、上方向を中心にRFIDタグを読み取る特許技術により、レジ周辺にある不要な商品の誤認識を抑え、安定した一括読み取りを可能にします。さらに、スマレジのPOS・店舗管理基盤とアスタリスクのRFID技術を連携させ、認識した商品情報と販売情報を統合することで、従来の「一点ずつ読み取る会計」から「まとめて認識する会計」への転換を推進します。今後は、セルフレジと有人レジの双方でRFID一括会計の普及を目指すとともに、商品を個品単位で認識できる特長を生かし、販売済み商品と店舗から移動する商品の照合など、万引きや未精算商品の検知を含む店舗防犯への活用も検討してまいります。

2. (2) トピックス (FY26)

21.8億円の資金調達に成功 8/13、27 リリース

当社が2026年7月13日にEVO FUNDに対して発行した新株予約権について、すべて（第9回および第10回）の新株予約権の行使が完了

第三者割当による第9回～第10回新株予約権（行使価額固定型）の募集概要

	割当先	個数	株式の 種類と数	1株当たり 行使価格	発行決議日	権利行使期限
第9回 新株予約権	EVO FUND	5,750個	普通株式 575,000株	1,800円	2026年6月26日	2029年7月13日
第10回 新株予約権	EVO FUND	5,750個	普通株式 575,000株	2,000円		

リリース概要

2026年7月13日にEVO FUNDを割当先として発行した第9回および第10回新株予約権について、8月27日までに全ての行使が完了したことを発表しました。これにより、両新株予約権を通じた資金調達額は、合計21億8,822万円となりました。調達した資金は、2026年6月26日に公表した資金使途に基づき、既存事業の成長、新たな事業機会の創出および成長投資などに充当する予定です。今回の資金調達により当社グループの財務基盤を一層強化し、各施策を着実かつ迅速に推進することで、中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

業績予測の修正及び特別損失 8/31 リリース

2026年8月期通期業績予想の修正及び特別損失（投資有価証券評価損）の計上について

2026年8月期（2025年9月1日～2026年8月31日）の連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 2,291	百万円 117	百万円 110	百万円 65	円 銭 8.38
今回修正予想（B）	1,450	△185	△230	△330	△41.92
増減額（B－A）	△841	△302	△340	△395	－
増減率（％）	△36.7	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （2025年8月期）	1,666	△125	△128	△182	△24.42

リリース概要

2026年8月期の連結業績予想を下方修正しました。売上高は従来予想の22億9,100万円から14億5,000万円、営業損益は1億1,700万円の黒字から1億8,500万円の赤字、親会社株主に帰属する当期純損益は6,500万円の黒字から3億3,000万円の赤字となる見込みです。主な要因は、米国子会社における6億800万円の大型案件と国内の2億3,100万円の大型案件について、顧客との調整等により売上計上が次期以降へずれ込む見込みとなったことです。また、研究開発体制の強化に伴う費用増加に加え、CANDY HOUSE JAPAN株式について1億100万円の投資有価証券評価損を計上し、連結子会社である自動レジ研究所の事業廃止に伴う損失も見込んでいます。一方、これらを将来の成長に向けた事業構造転換の機会と捉え、RFID関連特許の強化、最先端RFIDタグや店舗防犯ソリューションの開発を推進します。今後は、収益構造の改善と国内外の案件の着実な事業化を進め、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

3．事業計画及び成長可能性に関する事項

(1) 各事業別取り組み事項の目標に対する進捗

売上 100 億円以上の達成に向け、新技術の事業化による新サービスを順次提供
新領域へ積極的に参入し、次なるコアプロダクトを創出してまいりました。

20 期は、次の事業部に再編成して事業拡大を目指してまいりました

DX 事業部 ハンディターミナルをモバイル化へ変革

NX 事業部 RFID や、AsCode など新しい認識技術を世に

IT 事業部 受託開発に加え、当社パッケージを発表予定

AI 事業部 顔認識に加え、AI カメラ等の販売も予定

LM 事業部 リニアモーターを事業化

DX 事業部

ハンディターミナルをモバイル化へ変革

2026年8月期 取り組み事項

“耳を塞がない”ヘッドセット「AsReader PTT」を発表

ハンディターミナルをモバイル化へ

新型スマートフォン装着型バーコードリーダーの販売強化

店舗向け、各種アプリの販売強化

進捗状況

Bluetooth 接続の“耳を塞がない”ヘッドセット「AsReader PTT」を提供開始
(2025年10月15日公表)



青山商事の全店舗の約7割に当たる445店舗に新型アズリーダーを導入
(2026年6月1日公表)



スマホで「賞味期限管理」「作業工程削減」「フードロス削減」など、スマホカメラによるDXアプリ「SdcO（エスデコ）」の販売拡充



NX 事業部

RFID や、AsCode など新しい認識技術を世に

2026 年 8 月期 取り組み事項

RFID 製品の積極販売

RFID 新製品のローンチ・販売

RFID 関連アライアンス

RFID 化ソリューションの本格展開

進捗状況

トヨタ自動車へ、iPhone の USB Type-C 移行に伴い導入された最新モデル「ASR-M30S」の継続採用
(2026 年 1 月 19 日公表)

- ① RFID リーダー「ASR-M30S」の発売開始 (2025 年 9 月 1 日公表)
- ② 「RFID スターターキット」の提供開始 (2025 年 12 月 15 日公表)
- ③ 次世代 RFID ソリューション『AsReader BOX-Type』、「coca」旗艦店への導入のお知らせ (2026 年 8 月 4 日公表)

スマレジとアスタリスク、RFID レジ加速で協業開始
(2026 年 8 月 25 日公表)

- ① スーパーマーケット向け『全商品 RFID 化ソリューション』の本格展開を開始 (2026 年 6 月 30 日公表)
- ② 米国市場における RFID ソリューション事業を本格展開 (2026 年 7 月 6 日公表)
- ③ 飲食店向け RFID ソリューションを発表 (2026 年 7 月 9 日公表)
- ④ 「RFID スマートカート」を開発 (2026 年 8 月 24 日公表)



IT 事業部

受託開発に加え、当社パッケージを発表予定

2026 年 8 月期 取り組み事項

AsCode を利用した期限管理アプリ
StmA (エスティマ) を ローンチ

全国展開する大手洋菓子ブランド企業の受託開発
を提供

自社開発の独自ブランドパッケージサービスの
発表

進捗状況

“大量一括読み” AsCode で期限管理を
革新する新アプリ「StmA (エスティマ)」
の提供開始 (2025 年 9 月 29 日公表)



iPhone 売上登録アプリを受託開発。直営店・
百貨店など約 30 店舗で導入。レジ待ちの解消
や商品別売上上のリアルタイム確認を実現。
(2026 年 4 月より導入開始)



手のひらサイズで実現する次世代 POS レジ、セルフレジ
POS 「Salasee (セラシー)」の販売開始
(2025 年 12 月 3 日公表)



3. (1) 2026 年 8 月期の取り組みに対する事業部ごとの進捗状

況

AI 事業部 LM 事業部

顔認識に加え、AI カメラ等の販売も予定 (AI) / リニアモーターを事業化 (LM)

2026 年 8 月期 取り組み事項

【AI 事業部】

AI 顔認証プラットフォーム
「AsReader GoMA」を導入

【LM 事業部】

リニアモーターを事業化

進捗状況

西鉄ストア全拠点における「AsReader GoMA」導入を発表
R&D から商用フェーズへ。国内最大級の顔認証リプレイスプロ
ジェクト、小売業界の DX を牽引
(2026 年 4 月 21 日公表)



「浮かぶ搬送」アスタリスク、次世代リニア搬送システムを発表
(2026 年 3 月 30 日公表)
リニア技術による新型配膳ロボット『AsReader HAKOBU』の実
証運用を実店舗にて開始 (2026 年 8 月 5 日公表)



(2) 2027 年 8 月期事業計画

3. (2) 2027 年 8 月期の取り組み目標

売上 100 億円以上の達成に向け、スマートデバイス・RFID・AI・リニアモーターなどの独自技術を活用し、現場 DX と新市場の創造を推進。

国内で確立したビジネスモデルを海外へ展開するとともに、ストック収益の拡大と新規事業の収益化を推進し、持続的な成長と安定した収益基盤の確立を目指します。

21 期は、次のミッションを掲げ事業拡大を目指してまいります

DX 事業部 世の中のハンディターミナルをスマートフォンへ置き換える

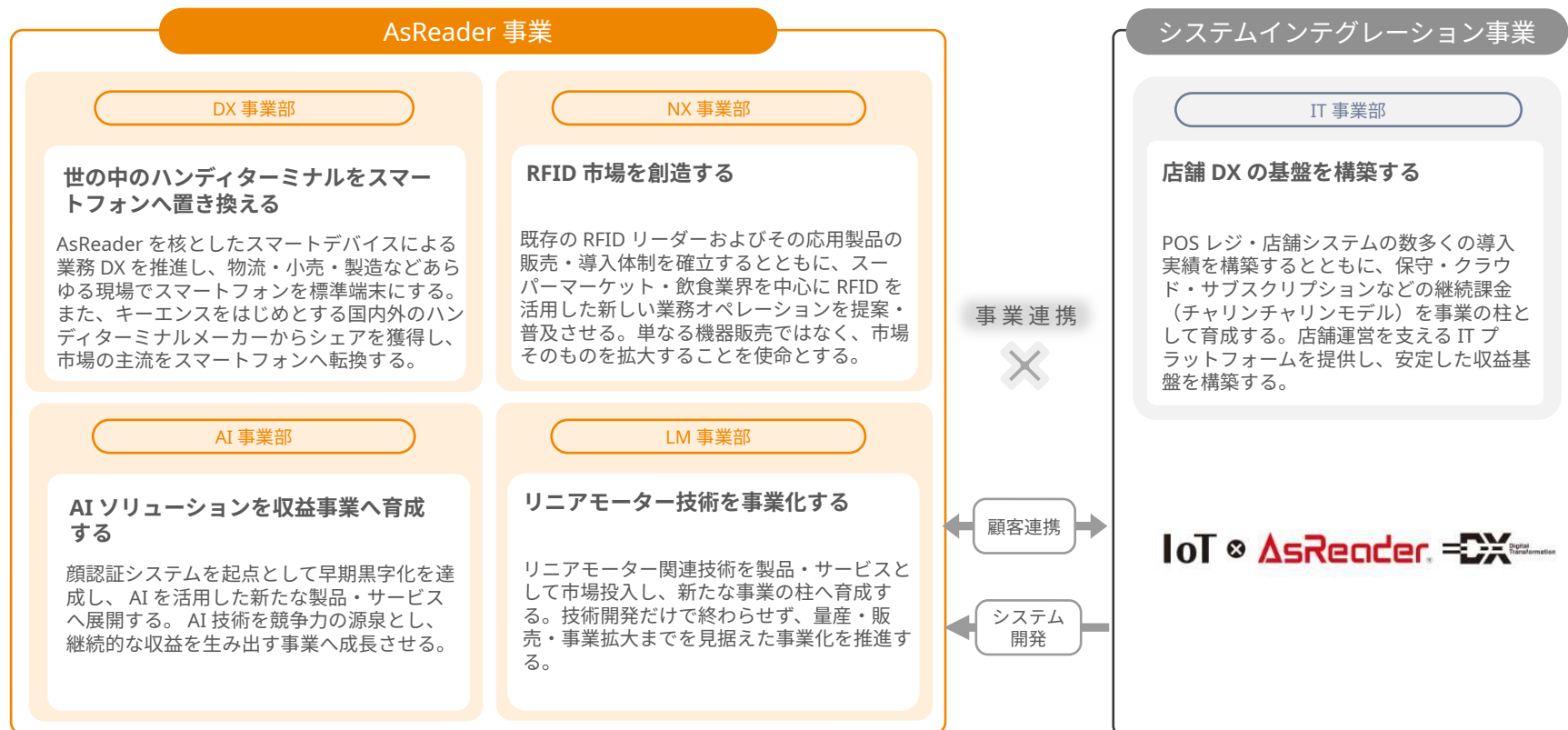
NX 事業部 RFID 市場を創造する

IT 事業部 店舗 DX の基盤を構築する

AI 事業部 AI ソリューションを収益事業へ育成する

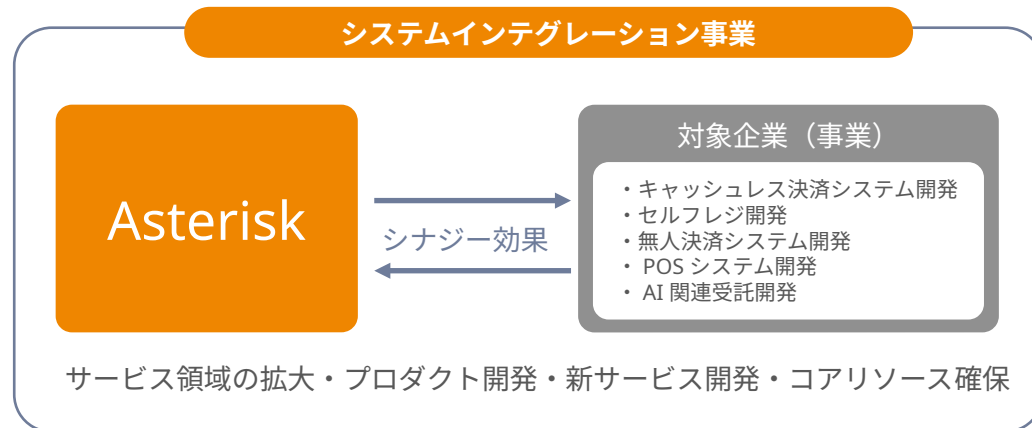
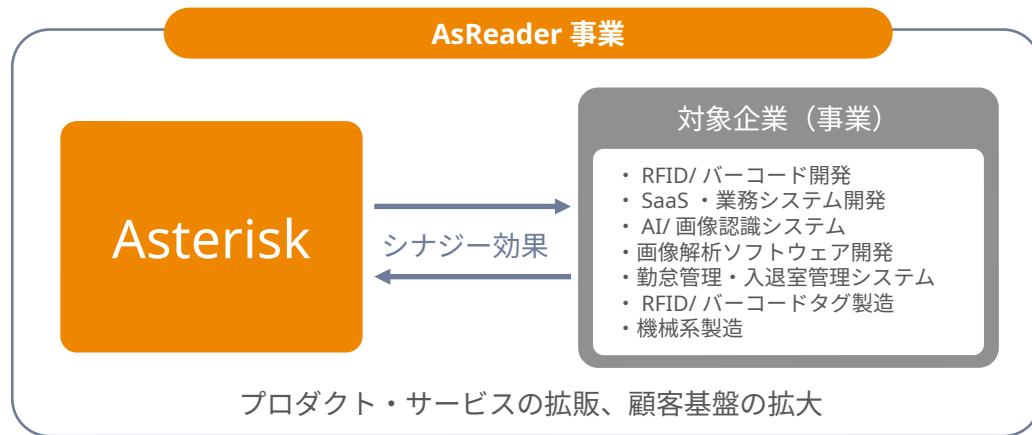
LM 事業部 リニアモーター技術を事業化する

3. (2) 事業部ごとの取り組み目標



既存事業との相乗効果とストック収益の拡大を軸とした、戦略的 M&A・アライアンスの推進

- ✓ M&A・アライアンスの豊富な経験を持つ役員の知見とネットワークを活用し、当社の技術力に、新たな顧客基盤・販路・開発力を組み合わせることで、事業成長を加速させる
- ✓ AsReader・RFID・AI・店舗システムなど、既存事業との相乗効果が見込める領域を中心に、国内外の提携・買収機会を検討します。製品・サービスの競争力強化と市場展開の加速に加え、ストック収益の拡大につながる事業基盤を獲得する
- ✓ 過去の投資経験を今後の判断に生かし、対象企業の収益力や成長見通し、投資額の妥当性を十分に精査するとともに、投資後の事業運営と成果の検証までを一貫して進める
- ✓ ガバナンスと実行力を備えた推進体制のもと、売上・利益・キャッシュフローの成長につながる投資を積み重ね、持続的な企業価値と株主価値の向上を目指す



3. (2) 2027 年 8 月期の連結利益計画について

2027 年 8 月期の連結利益計画について

2027 年 8 月期の連結利益計画におきまして、売上計画については、前期末比 0.5 % 増の 1,523 百万円、営業利益計画については、▲ 334 百万円（前期末▲ 189 百万円）、経常利益計画については▲ 341 百万円（前期末▲ 156 百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益については、▲ 351 百万円（前期末▲ 271 百万円）を見込んでおります。

単位：百万円

項目	2026 年 8 月 期 実績	2027 年 8 月 期 今期計画	増減額	増減率
売上高	1,516	1,523	7	+ 0.5%
営業利益	▲189	▲334	▲144	—
経常利益	▲156	▲341	▲184	—
親会社株主 に帰属する 当期純利益	▲271	▲351	▲80	—

2027 年 8 月期の業績見通し

当社グループは、端末販売中心の事業構造から、製品・ソリューションと継続的なサービス収益を組み合わせた事業構造への転換を進めております。前期は調達資金を活用し、研究開発投資と開発体制を強化しました。当期も、将来の成長に向けた RFID 関連製品・ソリューションの開発及び事業化への先行投資を継続いたします。

この転換を支えるため、RFID 関連技術の特許取得・権利範囲の拡充と、従来導入が難しかった商品や環境に対応する RFID タグ・読取技術の開発を進めております。これらを活用し、「全商品 RFID 化ソリューション」「AsReader BOX-Type」「AsReader RFID Reading TUB」、飲食店向け RFID ソリューション、RFID スマートカート及び店舗の防犯・不正防止ソリューションを展開し、市場と用途の拡大を図ります。

収益化に向け、当期は既存製品の販売拡大と、売上計上時期が前期から当期以降へ変更となった米国及び国内案件の実行に取り組みます。RFID スマートカートは、2027 年 1 月の米国「NRF 2027」及び同年 3 月の「RetailTech JAPAN 2027」への出展を通じて実証実験と協業を進め、2027 年中の実用化を目指しております。一方、大手企業への導入では、限られた店舗や現場で既存システムや店舗運営との適合性を検証し、課題解決後に段階的に展開します。大型案件ほど検証や調整に時間を要し、規模拡大が短期間で売上増加に直結するものではありません。この過程を事業計画に織り込み、導入実績を積み上げてまいります。

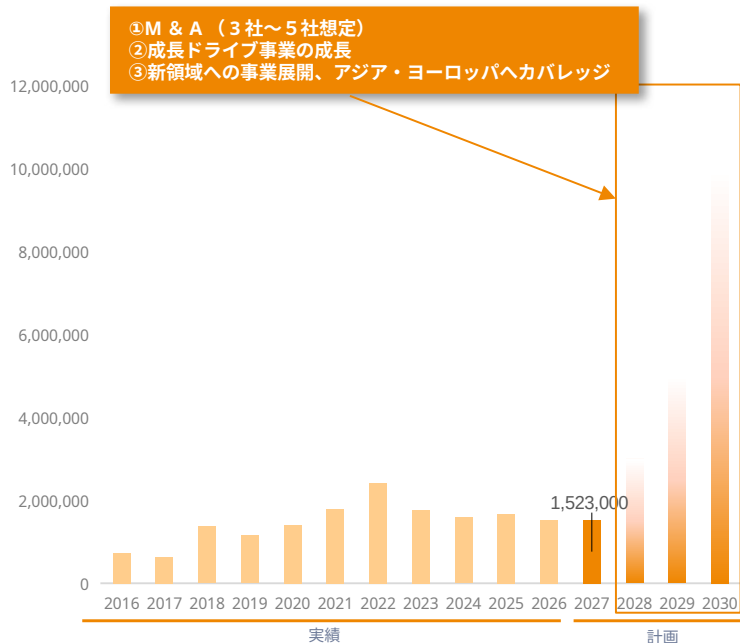
導入後は、機器販売に加え、システム利用、保守、RFID タグの継続供給、データ活用及びライセンス等による収益拡大を目指します。こうしたストック型事業は、導入先の拡大とサービスの定着に伴い収益が積み上がるため、当期の急激な売上増加よりも、中長期的な収益基盤の構築を重視しております。

このため、当期の売上高は微増にとどまり、研究開発費や人件費等の先行負担により、損失は前期より拡大する見通しです。投資を将来の成長につなげるため、各案件の事業性、市場性及び収益化までの期間を検証し、優先順位に基づき投資を配分します。あわせて、業務効率化と経費の見直しにより、固定費の適正化を進めます。当社グループは、先行投資で構築する技術・知的財産・人材及び事業基盤を活用し、開発から導入、継続収益の拡大へとつなげてまいります。大型案件の売上計上時期に左右されにくい収益構造を築き、中長期的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

3. (2) 経営指標 (売上高推移、B/S)

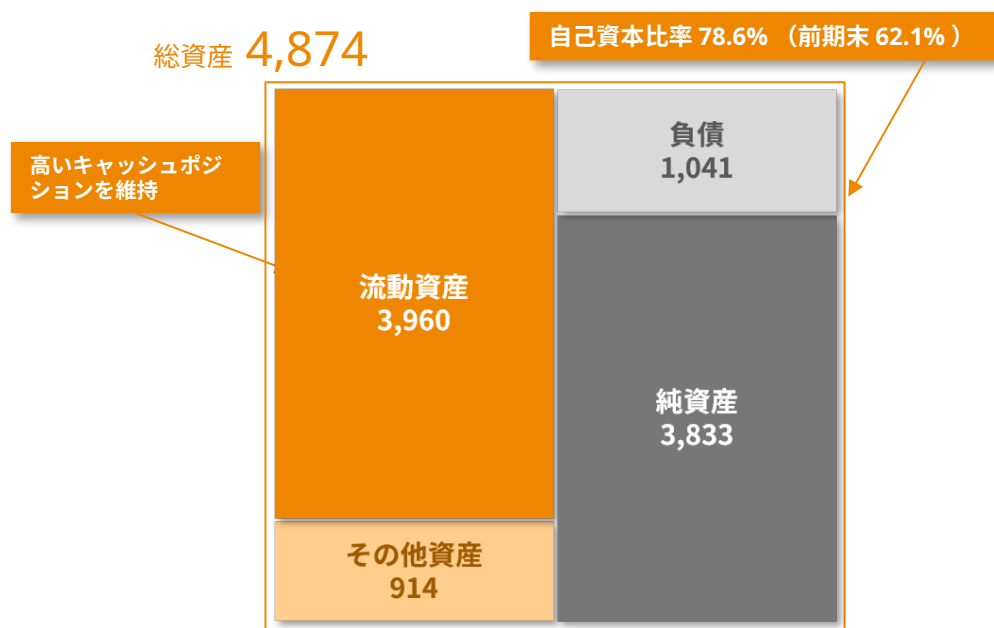
2026 年 8 月末日時点

売上高推移 (百万円)



2030 年の売上高 100 億円に向け
継続的な積極投資を計画

BS (百万円)

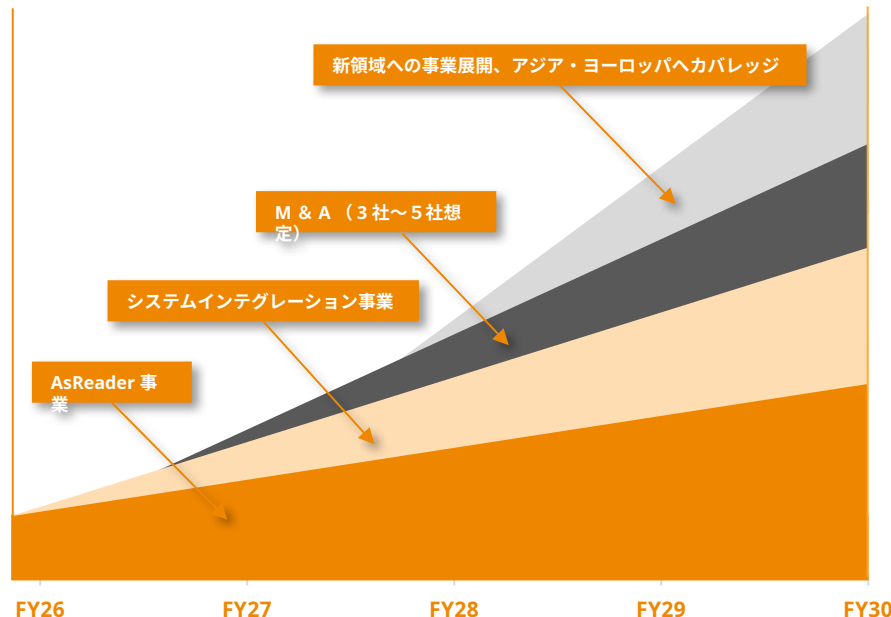


健全な財務基盤を保持

当社グループは、外部環境の変化にも耐え得る極めて強固な財務基盤を構築しており、事業成長に向けた研究開発や M&A などの戦略的投資を機動的に実行できる十分な財務余力を有しております。

セルフレジ関連の特許を強みに、**2030年売上高100億円**を目指し、次世代の商品識別インフラを構築します。M&A・アライアンスで開発力とAI解析機能を強化し、ストック収益の拡大と収益性の向上を推進。日本・米国の導入実績を欧州・アジアへ展開し、持続的な事業成長と世界標準の確立を目指します。

中長期的な成長イメージ



新領域への事業展開、アジア・ヨーロッパへカバレッジ

- 日本・米国で培った導入実績と事業ノウハウを生かし、アジア・欧州の物流・製造・小売などへAsReaderを展開。現地の業務ニーズに応じた製品・システムの提供と、有力代理店・システムベンダーとの連携により、新市場の開拓を推進
- グローバル企業の実数国・拠点への共通導入ニーズに対応し、販売・導入・保守を支える体制を強化。拠点間のシステム連携と運用の標準化を支援し、導入先の拡大とストック収益の積み上げを通じて、世界標準となる現場DX基盤の確立を目指す

M & A・アライアンスによる事業拡大

- AI・画像認識・画像解析など、既存事業との相乗効果が見込める企業とのM&A・技術提携を推進。AsReaderによるデータ取得に分析・判断機能を組み合わせ、現場業務の自動化とソリューションの付加価値向上を図る
- 大手メーカーや国内外の有力代理店、システムベンダーとの連携を強化。各社の顧客基盤・販路・導入支援体制を活用し、新たな業種・地域への展開と導入先の拡大を加速
- 対象企業の収益力・投資額の妥当性・統合後の事業効果を精査し、投資後の成果を継続的に検証。技術・顧客基盤の獲得をストック収益拡大につなげ、持続的な企業価値向上を目指す

システムインテグレーション事業の中長期成長戦略

- POSシステム・店舗システムの導入実績と受託開発で培った技術力を基盤に、M&A・アライアンスを通じて開発力・販路を強化。顧客のニーズに応じたシステム開発と、販売・在庫管理など店舗業務を一体で支える仕組みの提供により、競争優位性の強化と導入先の拡大を推進
- 受託開発やPOSシステムの導入を起点に、保守・運用支援やクラウドサービスを通じてストック収益を拡大。顧客の継続的な業務改善を支え、追加導入や機能拡張につなげることで、安定した収益基盤を構築

AsReader 事業の中長期成長戦略

- AsReaderとセルフレジ関連の特許技術を核に、在庫・資産管理やAI解析などの機能を組み合わせ、機器から業務システムまで一体で提供する「現場DXワンストップソリューション」へと進化
- 独自技術とM&A・アライアンスを通じた開発力・販路の強化により、顧客の業務に深く定着する仕組みを構築し、競争優位性と導入先の拡大を両立
- 機器導入に伴うシステム利用・保守・RFIDタグの継続供給を拡大し、ストック収益比率と収益性を向上。大型案件への依存を抑えた安定した収益基盤を築き、海外展開とともに2030年売上高100億円の達成と持続的な企業価値向上を目指す

4 . Appendix

4. 新株予約権による調達額 / 充当額（第5回～第7回）

2024年8月30日付取締役会決議に係る第三者割当による第5回乃至第7回新株予約権の発行により調達した資金の充当状況

資金調達使途

（2026年8月31日時点）

単位：百万円

具体的な使途	資金使途金額	充当額	支出予定時期
新製品の研究開発資金	200	200	2024年10月～ 2026年3月
新製品の製造資金	450	100	2024年10月～ 2027年12月※
営業力の強化施策資金	26	26	2024年10月～ 2026年5月
合計	676	326	

資金調達使途の説明

2024年8月30日提出の有価証券届出書に記載した第三者割当による第5回、第6回および第7回新株予約権の行使により調達した資金について、各開発計画の実施時期を見直し、2026年6月26日公表の訂正報告書において支出予定時期を変更いたしました。今後も開発の進捗を踏まえ、計画的かつ効果的な資金活用に向けてまいります。

なお、2026年6月26日公表の有価証券届出書に記載した各資金使途への充当予定額に変更はございません。引き続き、RFID関連の新商品、AI画像認識および人追跡ソリューションの開発等に資金を充当する計画です。

当社が培ってきたモノ認識技術を基盤に、商品・在庫管理の効率化や人の動きの把握・分析など、お客様の業務課題を解決する製品・サービスの拡充を目指します。また、各技術の連携により、付加価値の高いソリューションの提供につなげてまいります。

これらの取り組みを通じて、既存事業の競争力強化と新たな需要の開拓を図り、事業領域の拡大と収益基盤の強化を進め、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

（注）2024年8月30日付決議による第5回乃至第7回新株予約権は、EVO FUND 割当分の行使が完了しております。トリプルウィン割当分は未行使で、調達予定額136百万円（当初行使価額・諸費用控除前）は未調達であります。

※ 2026年6月26日付の有価証券届出書において、新製品の製造資金に係る支払予定時期を変更しております。

4. 新株予約権による調達額 / 充当額（第9回、第10回）

2026年6月26日付取締役会決議に係る第三者割当による第9回および第10回新株予約権の発行により調達した資金の充当状況

資金調達使途

（2026年8月31日時点）

単位：百万円

具体的な使途	資金使途金額	充当額	支出予定時期
リニアモーター分野の研究開発資金	500	0	2027年1月～2030年12月
M&A及び戦略投資資金	1,682	0	2026年11月～2030年12月
合計	2,182	0	

資金調達使途の説明

調達資金については、現時点では各資金使途への充当を行っておりませんが、公表した支出予定時期に沿って、研究開発及び戦略投資に向けた準備・検討を計画どおり進めております。

リニアモーター分野については、次世代搬送システム「AsReader HAKOBU」の実用化・事業化に向け、研究開発計画に沿った準備を進めております。

M&A及び戦略投資については、候補企業の情報収集に加え、個別案件のデューデリジェンス（事業・財務等の調査）や交渉を進めております。投資先の選定に当たっては、当社の技術・製品との相乗効果、顧客基盤や販路の拡大、投資金額の妥当性を十分に検証し、将来の収益拡大につながる案件の実現を目指しております。

今後も、支出予定時期を踏まえながら、投資効果を慎重に見極めて調達資金を活用し、中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。具体的な案件について開示すべき事項が決定した場合には、適時適切に公表いたします。

	主なリスク	発生可能性	影響度	対応策
事業全般	当社グループの主要な市場である国及び地域の経済環境、社会的及び政治的動向、景気後退による個人消費や民間設備投資の減少によって、当社グループが提供する製品・サービスの需要の減少や価格競争が激化する可能性があります。	低	中	優位な品質とコストを実現するための革新的な新技術の確立を目指しており、特許出願も進めてまいります。
海外生産	当社グループの主力製品AsReaderシリーズは、大半が海外企業のEMS生産となっており、Apple製品用の機器はAppleのMFi認証の認定工場である韓国のSPS社のみ生産が可能です。当該生産拠点においては、予期しない法律や規制の変更、経済的変動及び政治的混乱等のリスク、地震など大きな災害発生のリスク、委託企業の経営悪化による生産への影響リスクが存在いたします。	低	大	委託先企業との良好な関係の構築、維持に努めること、生産拠点の分散、生産技術の蓄積、自社生産のノウハウ獲得などの対策を講じてまいります。
品質に関するリスク	当社グループは、新製品も断続的に上市していくこととしています。このような状況下で、従来の知見にない品質上の課題が発現し、当該トラブル解決のための費用発生や品質に起因する販売の遅れ、従業員の人為的ミスまたは不測の事態の発生等による保守・製品保証に関する費用の発生などにより当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。	中	中	新製品について様々な角度から検証を行い評価する時間を踏まえたプロジェクト管理を行い上市の遅延による損失の回避を行ってまいります。

※事業等のリスクについて、有価証券報告書「第一部企業情報 第2事業の状況 3事業等のリスク」に掲載のリスクの中から、当社が特に重要と考えているリスクを抽出して記載しております。その他の事業等のリスクについては、有価証券報告書「第一部企業情報 第2事業の状況 3事業等のリスク」に記載しております。

【お問い合わせに当たってのお願いとご注意事項】

●お問い合わせ内容によってはお答えできない場合もございます。

●下記①～④に該当するご質問は、IRからの回答を差し控えておりますので、あらかじめご了承ください。

①金融商品取引法第166条「重要事実」に該当する可能性のあるご質問
(株価に関する対策、配当・株主還元に関する内容など)

②非公開情報に関するご質問(業績動向、将来予測・見通しなど)

③株式市場の値動きに関するご質問(株価動向、テクニカル分析、売買手口など)

※当社株価の上下変動や当社が非開示の将来的な株価対策などに関し、個別にお答えすることは差し控えております。

④誹謗中傷に該当するメッセージ(いわれの悪い悪口、根拠のない名誉棄損など)

●当社からご回答としてお送りするメール(電話での回答含む)は、株主・投資家の皆様からお寄せいただいたお問い合わせなどに回答する目的で、個人宛

てにお答えするものです。

その内容の一部または全部を転載、二次利用することはご遠慮ください(SNSや、株式関連サイトの掲示板への書き込みなどもご遠慮ください)。

●各種アンケート、営業目的(売り込み目的)のお問い合わせなどにつきましては、お受けできませんのであらかじめご了承ください。

【本資料へのご意見・ご質問】

本説明会資料やIRに関するご意見・ご質問は、弊社ホームページの「IR お問い合わせ」フォームよりお寄せくださいますようお願い申し上げます。誠に恐れ入りますが、お電話でのご質問にはお答えいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

【IRお問い合わせ】

(URL) https://www.asx.co.jp/ir/other_info/inquiry/



免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

本資料の今後の開示について、本決算後の毎年10月に最新の内容に更新のうえで開示を行う予定であります。